

EGOTERIC

UX-3 Pi

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

エソテリック製品は、最良の音質で未永くお使いいただくために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造しております。最良のコンディションでお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

未永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



目次

準備

| | |
|----------------|----|
| 安全にお使いいただくために | 4 |
| お使いになる前に | 7 |
| ディスクについて | 8 |
| リモコンの使い方 | 11 |
| テレビとの接続 | 12 |
| アンプなどとの接続 | 14 |
| その他の接続 | 16 |
| 各部の名称 (本体) | 18 |
| 各部の名称 (ディスプレイ) | 19 |
| 各部の名称 (リモコン) | 20 |

再生

| | |
|--|----|
|      再生 | 22 |
| 見たい場面から再生するには | |
|      スキップ、数字キー | 25 |
|      早送り/早戻し | 26 |
|      グループ/タイトルの切換 | 27 |
|      再生エリアの切換 | 27 |
|      リpeat再生 | 28 |
|      音声を切り換えるには | 29 |
|      DVDの字幕を選ぶには | 29 |
|      マルチアングル | 30 |
|      字幕の明るさを変えるには | 30 |
|      スロー再生/コマ送り | 31 |
|      リップシンク機能 | 31 |
|      FLディマー | 32 |
|      映像出力のオン/オフ | 32 |
|      ディスクの情報を見るには | 33 |

設定

| | |
|---------------------------------------|----|
| デジタルフィルター、HDMI、4%ダウン、ワードシンク、i.LINKの設定 | 36 |
| 設定画面について | 41 |

音声の設定

| | |
|-------------|----|
| アナログ出力 | 43 |
| デジタル出力 | 43 |
| CD再生 | 44 |
| Dレンジコントロール | 44 |
| グループ再生 | 45 |
| 2ch ダウンミックス | 45 |

画質の設定

| | |
|------------|----|
| 画質モード | 46 |
| プログレッシブモード | 47 |
| DCCI | 47 |

言語の設定

| | |
|--------|----|
| 優先音声言語 | 48 |
| 優先字幕言語 | 48 |
| 字幕表示 | 49 |
| OSD言語 | 49 |
| 言語コード表 | 50 |

環境設定






| | |
|--|----|
| スピーカー設定 | |
| スピーカーのサイズ設定 | 51 |
| スピーカーの距離設定 | 52 |
| スピーカーのレベルの調節 | 54 |
| テストトーンの長さの変更 | 54 |
| デジタル音声出力 | 55 |
| Dolby Digital/DTS/MPEG Audio/ ダウンサンプリング | |
| 映像出力 | 56 |
| テレビ画面/S映像出力/コンポーネント/ PAL-NTSC変換/キャプション/スチルモード | |
| 表示設定 | 58 |
| 画面表示/アングルマーク/背景 | |
| 視聴制限 (パレンタルロック) | 58 |

その他

| | |
|-------------------|----|
| 困ったときは | 60 |
| i.LINK (IEEE1394) | 63 |
| 用語 | 64 |
| 仕様 | 66 |
| 保証とアフターサービス | 67 |

この取扱説明書で使っている記号について

注意：ディスクによっては機能しないことがあります。

-  **DVD** : DVDビデオで使う機能
-  **VCD** : ビデオCDで使う機能
-  **CD** : 音楽用CDで使う機能
-  **SA-CD** : スーパーオーディオCDで使う機能
-  **DVD-A** : DVDオーディオで使う機能

本機は*ドルビーデジタルデコーダーおよび**DTSデコーダーを搭載しています。

*: ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

**：DTSはDTS, Inc.の登録商標です。DTS 96/24はDTS, Inc.の商標です。

本機の映像出力には、米国Analog Devices社製の新NSV(Noise Shaped Video)技術により構成された高性能14bit216MHz映像6chDAC ADV7324を搭載しています。

新NSV技術は、マルチビット・デルタシグマ回路の技術でビデオノイズ成分を 不要帯域に追いやることにより、アナログフィルターによって情報を損失することなく効果的にノイズを除去し、映像信号の高いリニアリティと低ノイズ特性を実現しています。

NSVは米国Analog Devices, Inc.の登録商標です。

画像の輪郭に現れるギザギザを補正し、シャープかつ自然なイメージを投影できるDCDi(Directional Correlational Deinterlacing)技術を採用しました。米国Genesis Microchip社の事業部[Faroudja]のDCDi回路は、ピクセル単位で輪郭部の傾き角度を検出し、その傾きに合った補間信号を生成することにより、ジャギーノイズを抑えたプログレッシブ映像に変換する技術です。

DCDiはGenesis Microchip社の事業部門であるFaroudjaの商標です。

この製品にはマクロビジョンコーポレーション及びその他の権利者が所有している米国特許の方法クレームその他の知的財産権で保護されている著作権保護のための技術が搭載されています。この著作権保護のための技術の使用に関しては、マクロビジョンコーポレーションの許可が必要ですが、家庭及びその他の限定された視聴に限っては許可を受けています。またリバースエンジニアリングや分解は禁止されています。




Super Audio CDとDSDは登録商標です。DVDロゴはDVD Format/Logo Licensing Corporationの商標です。




「i.LINK」は、IEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKは、i.LINKに準拠した製品につけられるロゴです。「i.LINK」とi.LINKはソニー株式会社の商標です。



HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfacelは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

|  警告 以下の内容を見無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。 | |
|---|--|
|  電源プラグをコンセントから抜け | 万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なおいや音がするときは。 機器の内部に異物や水などが入ったときは。 この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店または弊社サービス部門に修理をご依頼ください。 |
|  禁止 | 電源コードを傷つけない。 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。 コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店または弊社サービス部門に交換をご依頼ください。 |
| | 電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。 |
| | 交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。 |
| | 機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。 |

| | |
|---|---|
|  警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。 | |
|  分解禁止 | <p>この機器のカバーは絶対に外さない。</p> <p>カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または弊社サービス部門にご依頼ください。</p> |
|  強制 | <p>この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。</p> <p>ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。</p> <p>内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> |

| | |
|--|---|
|  注意 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。 | |
|  強制 | <p>オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。</p> <p>また、接続は指定のコードを使用する。</p> |
| | <p>電源を入れる前には音量を最小にする。</p> <p>突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> |
| | <p>この機器は約24kgあり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。</p> |
| | <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。</p> <p>異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。</p> |

安全にお使いいただくために



注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。
湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。
調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。
火災・感電やけがの原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない。
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

ディスクの挿入口に手を入れない。
特にお子様にはご注意ください。けがや故障の原因となることがあります。



電源プラグを
コンセントから
抜け

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、
外部の接続コードを外す。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグを
コンセントから抜く。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。



愛情点検

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
5年に1度は、販売店または弊社サービス部門に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

お使いになる前に

付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

- 電源コード×1
- リモコン(RC-1082)×1
- リモコン用乾電池(単3)×2本
- フェルト×3枚
- 取扱説明書×1
- ご愛用者カード×1

使用上の注意

- 本機の上には物を置かないでください。上に布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上に置かないでください。内部に熱がこもると、火災や故障の原因となることがあります。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- 再生中はディスクが高速回転しているので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。
- ガラスドア付きラックに設置した場合、ガラスドアを閉めたままリモコンのOPEN/CLOSEボタン(▲)を押してディスクトレイを開けないでください。強い力でディスクトレイの動きが妨げられると、故障の原因になります。
- 本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出してください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。
- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムのそばの安定した場所に設置してください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。
- 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。そのため本機をVTRを通してテレビに接続したりVTRで録画して再生をすると、正常な再生画像が得られない場合があります。
- 床を傷付けたくない場合は、脚の裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。

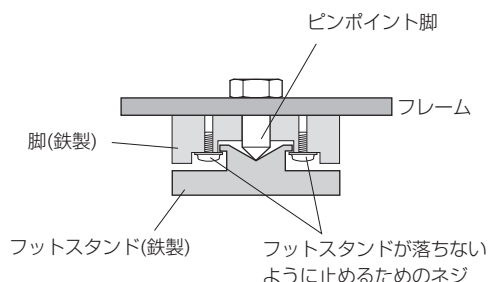
外部接続した機器で録音する時の注意

- デジタル音声出力端子に接続した機器で録音するときは、「デジタル音声出力」の設定を「PCM」にしてください。(55ページ)
- ディスクによってはコピー禁止信号の入っているものがあります。コピー禁止信号の入っているディスクの音声をデジタル信号のまま録音することはできません。(音声をアナログで録音することは可能です)

設置について

本機の底板には、工具鋼を焼き入れ処理した高硬度ピンポイント脚と鉄製の脚が強固に取り付けられています。

フットスタンドはぐらついた状態になっていますが、設置するとピンポイント支持になり、振動を効果的に分散させます。



- 本機は大変重いので、設置の際は、けがをしないように十分ご注意ください。
- 床を傷付けたくない場合は、フットスタンドの裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。

お手入れ

表面が汚れたときは乾いた柔らかい布で拭いてください。ひどい汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。

ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠️ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

ディスクについて

下の表に表示されているマークは、ディスクレーベルまたはジャケットに付いています。本機はこの表のディスクをアダプターなしで再生することができます。この表のディスク以外は再生できません。

本機で再生できるディスクの種類とマーク

| | |
|-------------|---|
| DVDビデオ |  |
| DVDオーディオ |  |
| 音楽用CD |  |
| ビデオCD |  |
| スーパーオーディオCD |  |

上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。

- 故障などを防ぐため、8cmアダプター(CD用)は使わないでください。
- DVD-ROM、CD-ROMなどは再生できません。
- コピーコントロールCDなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクやDualDiscは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

DVDビデオのリージョンコードについて

DVDプレーヤーとDVDビデオディスクは発売地域ごとに再生可能地域番号(リージョンコード)が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョンコードは**2**です。



再生できるディスクの例



再生できないディスクの例

DVD-R/DVD-RWについて

本機はDVDビデオフォーマットで記録されたDVD-RおよびDVD-RW、またはVR(ビデオレコーディング)フォーマットで記録されたDVD-RWを再生することができます。

- 本機はCPRM(1回だけ録画可能な映像素材に対する著作権保護技術)に対応しておりませんので、「1回だけ録画可能な映像素材」を録画した部分を再生することはできません。
- DVDレコーダーで録画/編集したディスクは、正常に再生できないことがあります。
- VRフォーマットのディスクについては一部対応できない機能があります。

CD-R/CD-RWについて

本機は音楽CDフォーマット、またはビデオCDフォーマットで記録されたCD-R/CD-RWを再生することができます。

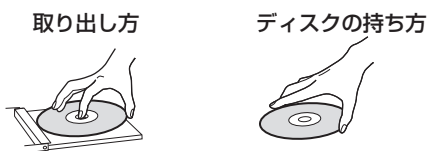
- CDレコーダー/DVDレコーダーで作成したディスクは、忘れずにファイナライズしてください。

ディスクの品質、記録の状態によっては再生できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。

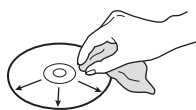
ディスクについて

ディスクの取り扱い

- ディスクはレーベル面を上にしてセットしてください。
- ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。

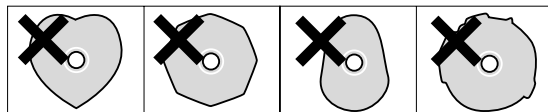


- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。ディスクの汚れは画質・音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。



- レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所には放置しないでください。
- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。
- 再生が終ったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのシールなどはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



- 本機はVRDSターンテーブルメカニズムを使用していますので、ディスクのレーベル面が汚れていると、ディスクがターンテーブルに貼り付いてしまう原因となります。ディスクのレーベル面に汚れがついたら、柔らかい布などで拭き取ってください。
- レーベル面に印刷するタイプのディスク(プリンタブルディスク)は使用しないでください。表面が特殊加工されているため、本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

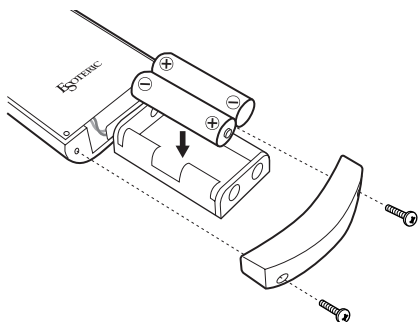
リモコンの使い方

リモコン使用上の注意

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、7メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

ドライバーを使ってリモコン下部のフタを外し、電池ケースを引き出してください。⊕と⊖の向きを確認して乾電池(単3形)2本を入れたら、電池ケースを戻し、フタを閉めてください。



電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

⚠ 電池についての注意

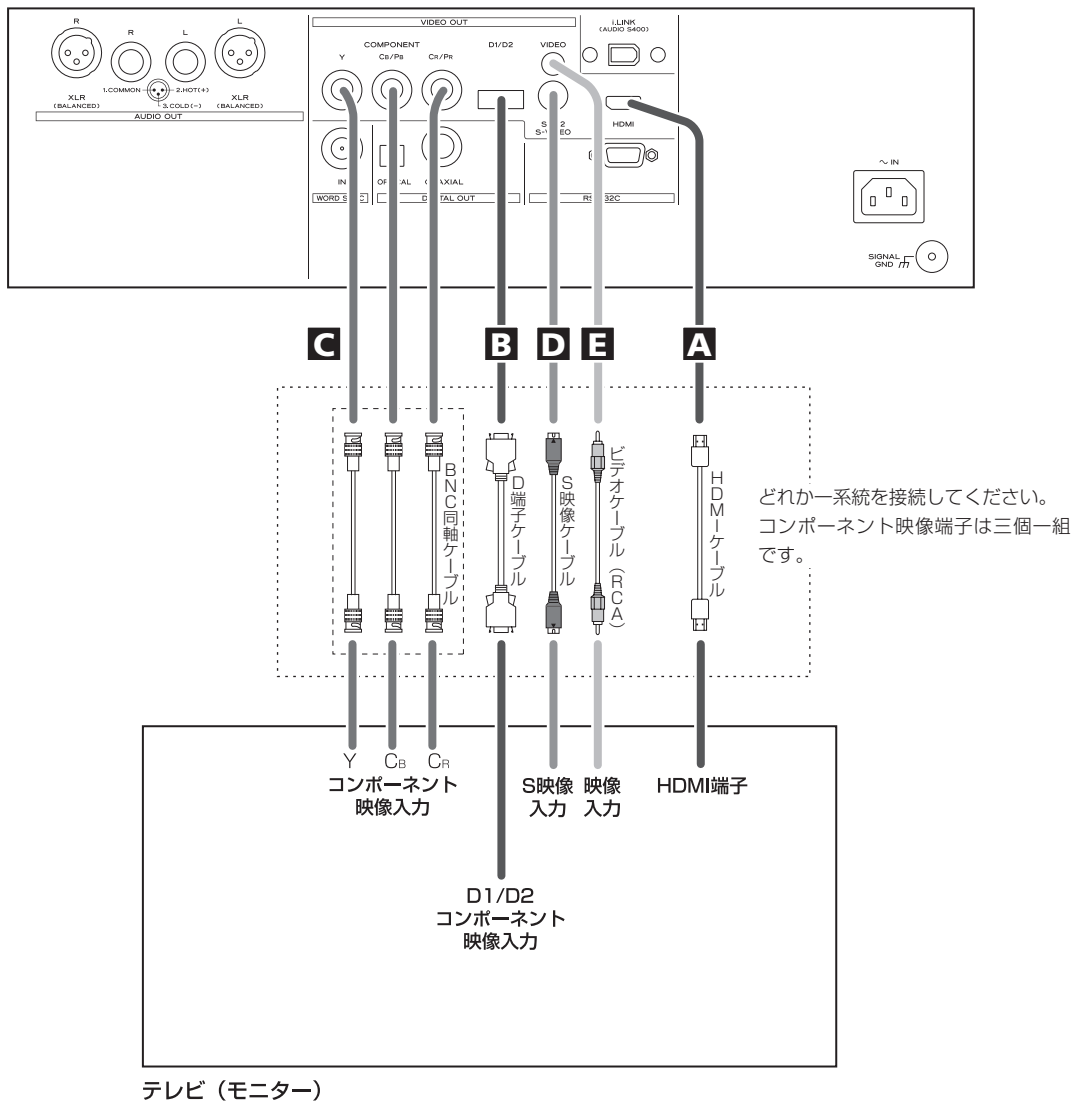
電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

- 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

テレビとの接続

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



- 接続したテレビに合わせて、映像の縦横比(アスペクト)を切り換えてください。(56ページ)
- 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。そのため本機をVTR(ビデオデッキ)を通してテレビに接続したりVTRで録画して再生をすると、正常な再生映像が得られない場合があります。本機の映像出力は、VTRを通さずにテレビと直接接続してください。

A HDMI端子

1本のケーブルで映像と音声をデジタル出力することができます。

テレビ(モニター)にHDMI入力端子がある場合は、市販のHDMIケーブルを使って本機のHDMI端子と接続してください。きれいな映像を楽しめます。

- 本機と接続する機器のHDMI端子の詳細については、その機器の取扱説明書をよくお読みください。
- テレビ(モニター)のHDCP対応のDVI端子と接続する場合は、HDMI-DVI変換ケーブルを使用してください。DVI端子と接続した場合、音声は出力できません。

HDMI端子を使うときは、「HDMI」をオンにしてください。(36、37ページ)

必要に応じて、以下の項目を設定してください。

- ・ HDMIの出力方法(36～38ページ)
- プログレッシブ対応機器と接続した場合：
 - ・ 「画質モード」(46ページ)
 - ・ 「プログレッシブモード」(47ページ)
 - ・ 「DCDi」(47ページ)

HDMI端子から音声を出力するには

接続したHDMI機器に音声受信機能がある場合、CD、DVDビデオ、DVDオーディオの音声をHDMI端子から出力できます。

スーパーオーディオCDの音声は出力できません。

HDMI端子から音声を出力するためには、「デジタル出力」を「ON」にしてください。(43ページ)

必要に応じて、以下の項目を設定してください。

- ・ 「アナログ出力」(43ページ)
- ・ 「デジタル音声出力」(55ページ)
- ・ スピーカー設定(51～54ページ)

B D1/D2映像出力端子(コンポーネント)

テレビ(モニター)にD映像入力端子(D1またはD2対応)がある場合は、市販のD端子ケーブルを使って本機のD1/D2端子と接続すると、コンポーネント映像端子と同等のきれいな映像を楽しめます。

プログレッシブ対応機器と接続した場合は、必要に応じて、以下の項目を設定してください。

- ・ 「コンポーネント」(57ページ)
- ・ 「画質モード」(46ページ)
- ・ 「プログレッシブモード」(47ページ)
- ・ 「DCDi」(47ページ)

D1/D2端子が対応する信号フォーマット(NTSC/PAL)

| | 480i/576i (525i/625i) | 480p/576p (525p/625p) |
|------|--------------------------|--------------------------|
| D1端子 | ○ | × |
| D2端子 | ○ | ○ |

()内は走査線数で数えたときの別称です。

i：インターレース(飛び越し走査)

p：プログレッシブ(順次走査)

C コンポーネント映像出力端子

テレビ(モニター)にコンポーネント映像入力端子(COMPONENT VIDEO IN)がある場合は、市販のBNC同軸ケーブルを使って本機のコンポーネント映像出力端子(COMPONENT VIDEO OUT)と接続してください。きれいな映像を楽しめます。

- ハイビジョン専用のコンポーネント(Y/P_B/P_R)映像入力端子と接続することはできません。
- テレビ(モニター)にRCA端子しかない場合は、変換コネクタを使用してください。

プログレッシブ対応機器と接続した場合は、必要に応じて、以下の項目を設定してください。

- ・ 「コンポーネント」(57ページ)
- ・ 「画質モード」(46ページ)
- ・ 「プログレッシブモード」(47ページ)
- ・ 「DCDi」(47ページ)

D S映像出力端子

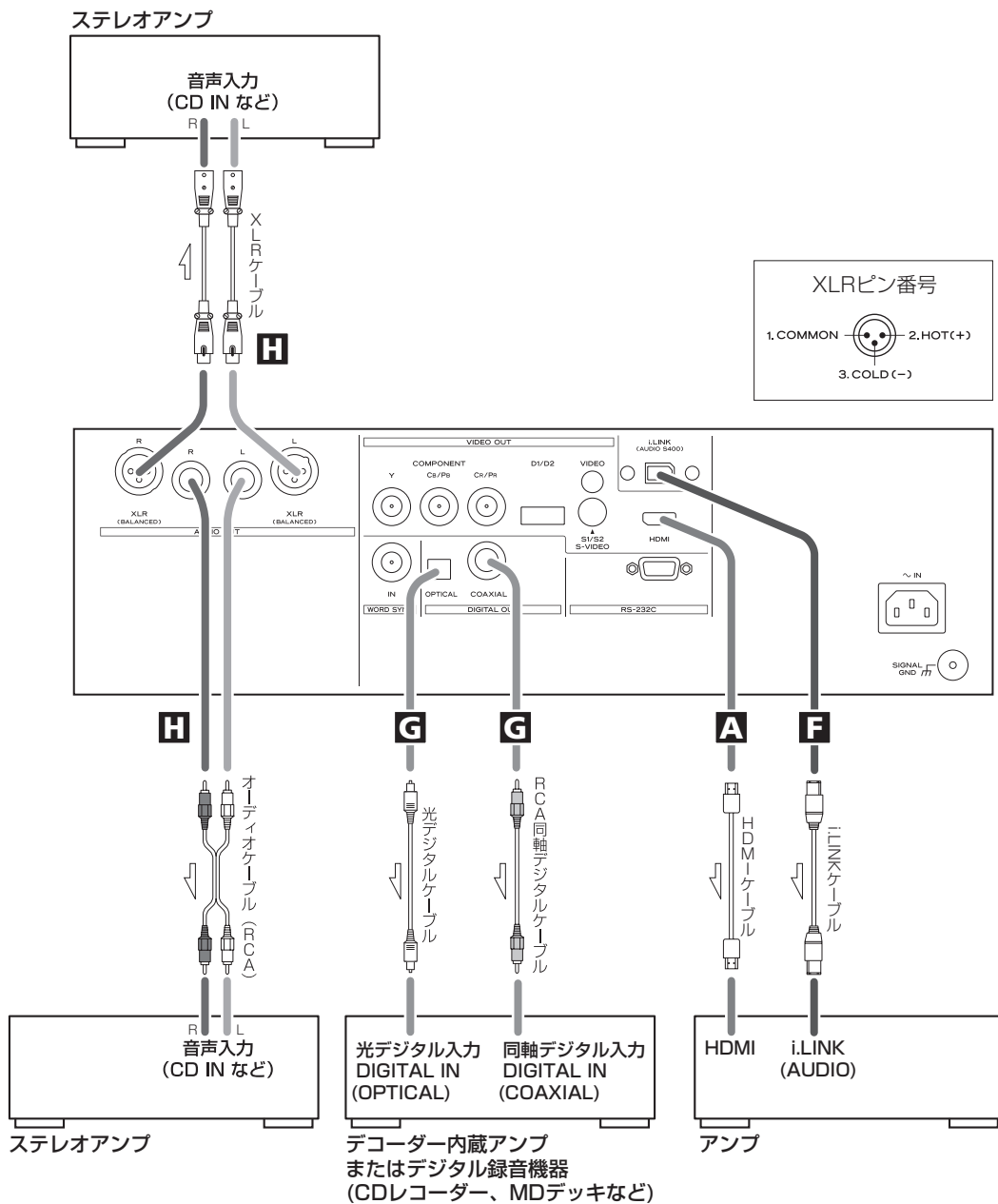
HDMI端子、コンポーネント映像入力端子、D端子がないテレビ(モニター)で、S映像入力端子(S-VIDEO IN)がある場合は、市販のS映像ケーブルを使って本機のS映像出力端子(S-VIDEO OUT)と接続してください。

- S映像出力端子の使用時に、映像が横長になってしまうときは、「S映像出力」を「S1」にしてください。(56ページ)

E 映像出力端子

テレビ(モニター)に映像入力端子(VIDEO IN)しかない場合は、市販のビデオケーブル(RCA)を使って本機の映像出力端子(VIDEO OUT)と接続してください。

アンプなどの接続



F i.LINK(AUDIO)端子

DVD/CD/ビデオCDのデジタル音声だけでなく、スーパーオーディオCDとDVDオーディオのサラウンド音声もデジタル出力することができます。

市販のS400対応の6ピンのi.LINKケーブル(IEEE1394ケーブル)を使って、アンプ(AZ-1など)またはD/Aコンバーター(D-01など)のi.LINK(AUDIO)端子(IEEE1394端子)と接続してください。

i.LINK端子を使うためには、以下の設定が必要です。

- ・「デジタル出力」を「ON」にする。(43ページ)
- ・「i.LINK」を「60958」または「PCM」にする。(40ページ)
「60958」を選んだ場合は、「デジタル音声出力」も設定する。(55ページ)

必要に応じて、以下の項目も設定してください。

- ・「アナログ出力」(43ページ)
- ・スピーカー設定(51～54ページ)

G デジタル音声出力端子

DVD/CD/ビデオCDのデジタル音声を出力します。本機のデジタル出力端子(COAXIALまたはOPTICAL)を、デコーダー内蔵アンプやデジタル録音機器(CDレコーダーなど)のデジタル入力端子と接続します。

接続には市販のケーブルをお使いください。

COAXIAL : RCA同軸デジタルケーブル
OPTICAL : 光デジタルケーブル(TOS)

- 本機の光デジタル端子はシャッター式です。接続するときは、端子の向きを合わせてしっかりと差し込んでください。誤った向きで無理に差し込むと、端子が変形してシャッターが閉まらなくなることがありますのでご注意ください。
- この端子からは、スーパーオーディオCDのデジタル音声およびDVDオーディオのサラウンドのデジタル音声は出力できません。DVDオーディオの192kHz/176.4kHz音声は、96kHz/88.2kHzまたは48kHz/44.1kHzに変換して出力されます。ただし、ディスクによっては、デジタル音声を出力しないことがあります。

デジタル音声出力端子を使うためには、以下の設定が必要です。

- ・「デジタル出力」を「ON」にする。(43ページ)
- ・接続した機器に合わせて、「デジタル音声出力」を設定する。(55ページ)

H アナログ音声出力端子

2チャンネル(ステレオ)のアナログ音声を出力します。

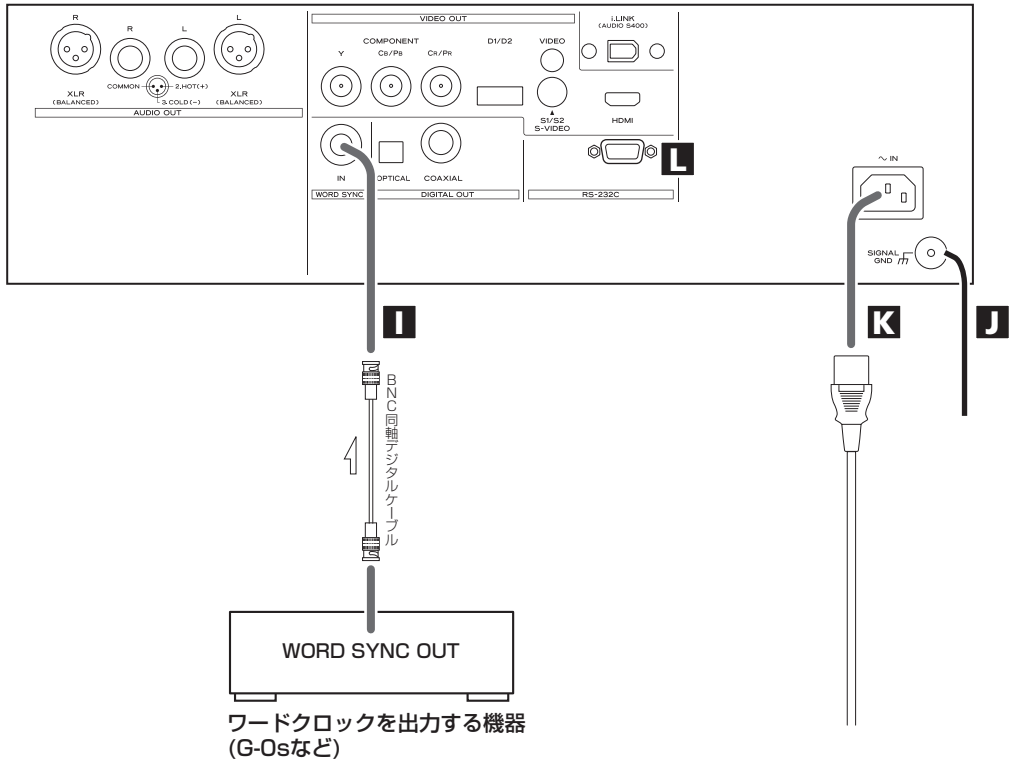
アンプにXLRの音声入力端子がある場合は、市販のバランス型XLRケーブルを使って、本機のR端子とアンプのR端子、本機のL端子とアンプのL端子をそれぞれ接続してください。

アンプにXLRの音声入力端子がない場合は、市販のRCAオーディオケーブルを使って、本機のR端子とアンプのR端子、本機のL端子とアンプのL端子をそれぞれ接続してください。

アナログ音声出力端子を使うためには、「アナログ出力」を「2ch」にしてください。(43ページ)

「アナログ出力」は、リモコンの2CH/MULTIボタンでも切り換えることができます。

その他の接続



I ワードシンク端子

同期信号を入力します。

市販のBNC同軸ケーブルを使って、マスタークロックジェネレーターやD/AコンバーターのWORD SYNC OUT端子と接続してください。

ワードシンク端子を使うときは、「WORD」をオンにしてください。(36、39ページ)

J アース端子[GND]

市販のビニール電線でアンプとアース接続すると、音質が良くなることがあります。

- 安全アースではありません。

K 電源コード

電源コード接続ソケットに付属の電源コードを差し込んでください。全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

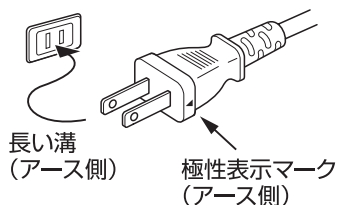
- 本機の電源コード接続ソケットは3ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。

⚠ エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

電源の極性管理について

本機はより良い音質を得るために、電源の極性管理をしています。電源コードのプラグ部分に、極性管理用の極性表示マーク(▲)が付いています。本機では、印の付いている方がアース側です。

一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。極性表示マークが付いている側の差し込み刃をコンセントの長い溝の方に差し込んでください。なお、極性管理されていない電源コンセントに接続するときは、電源プラグを逆に差し込んでみるなどの方法で音質の良い方を選択してください。



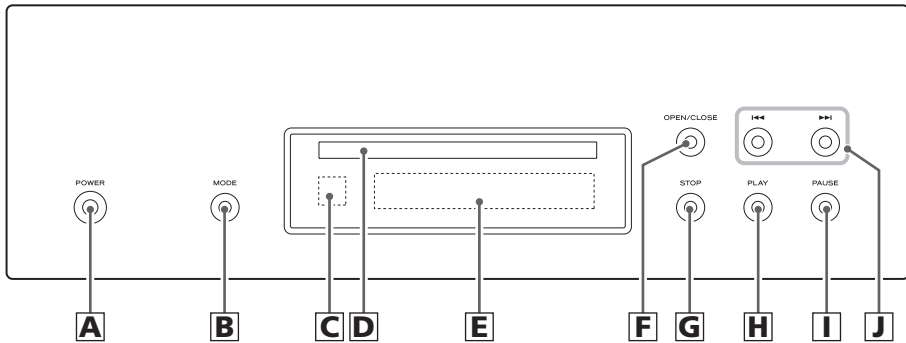
L リモコン入力[RS-232C]

専門業者(カスタムインストーラー)用のコントロール端子です。

エソテリックでは、リファレンスとして**エソテリック MEXCEL ストレスフリー7N**ケーブルを使用しています。エソテリック **MEXCEL**ケーブルシリーズは、以下のものが発売されています。

| | |
|--------------|-------------|
| RCAオーディオケーブル | XLRデジタルケーブル |
| XLRオーディオケーブル | BNCデジタルケーブル |
| RCAデジタルケーブル | スピーカーケーブル |

各部の名称（本体）



A 電源ボタン [POWER]

電源のオン/オフを切り換えます。電源がオンのときは、ボタンの周囲が青く光ります。

B モードボタン [MODE]

デジタルフィルター、HDMI、4%ダウンモード、ワードシンク、i.LINKの設定に使用します。
(36～40ページ)

4%ダウンモードがオンのときは、PALのDVDディスクを再生するとボタンの周囲がオレンジに光ります。
(39ページ)

ワードシンクがオンのときは、ボタンの周囲が青く光ります。4%ダウンモードとワードシンクの両方がオンのときは、紫色になります。

ワードクロックを感知できない場合は、点滅します。
(39ページ)

C リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。
(11ページ)

D ディスクトレイ

E ティスプレー

F オープン/クローズボタン [OPEN/CLOSE]

ディスクトレイを開閉します。(24ページ)

G 停止ボタン [STOP]

再生を停止します。停止中はボタンの周囲が青く光ります。(24ページ)

H 再生ボタン [PLAY]

ディスクを再生します。再生中はボタンの周囲が青く光ります。(22ページ)

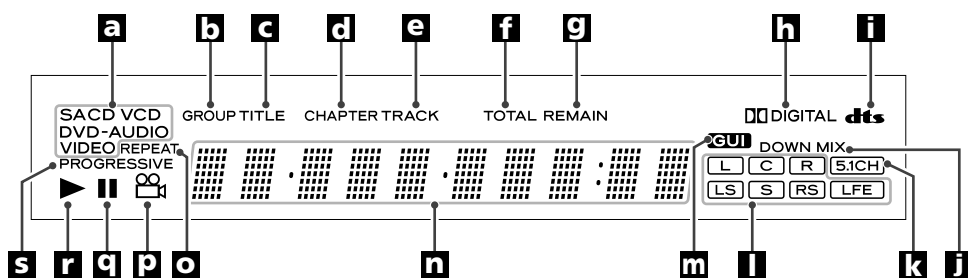
I 一時停止ボタン [PAUSE]

再生を一時停止します。一時停止中はボタンの周囲が青く光ります。(24ページ)

J スキップボタン [◀◀/▶▶]

前または後ろにスキップします。再生中に1秒以上押し続けると再生スピードが変わります。
(25、26ページ)

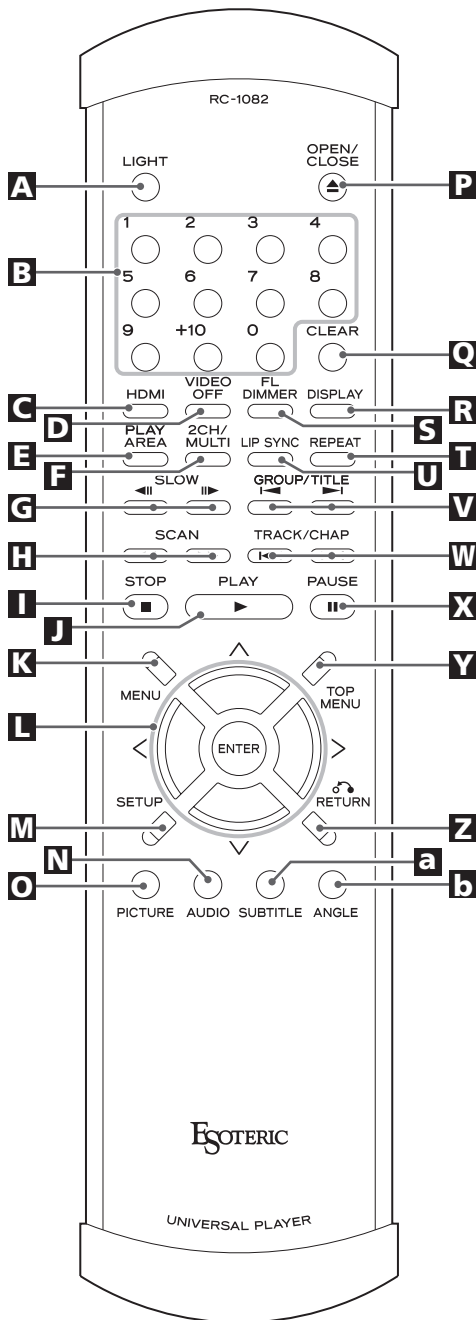
各部の名称 (ディスプレイ)



準備

- a** ディスクインジケータ
セットされているディスクの種類を表示します。
- b** グループインジケータ
DVDオーディオのグループ番号を表示しているときに点灯します。
- c** タイトルインジケータ
DVDのタイトル番号を表示しているときに点灯します。
- d** チャプターインジケータ
DVDのチャプター番号を表示しているときに点灯します。
- e** トラックインジケータ
CD/スーパーオーディオCD/ビデオCDのトラック番号を表示しているときに点灯します。
- f** トータルインジケータ
総再生時間の表示中に点灯します。
- g** リメインインジケータ
残り再生時間の表示中に点灯します。
- h** ドルビーデジタルインジケータ
ドルビーデジタル音声の再生中に点灯します。
- i** DTSインジケータ
DTS音声の再生中に点灯します。
- j** ダウンミックスインジケータ
マルチチャンネルの音声をダウンミックスして出力しているときに点灯します。(43ページ)
- k** 5.1チャンネルインジケータ
アナログ出力の設定が「マルチch」のときに点灯します。(43ページ)
- l** チャンネルインジケータ
再生中の音声チャンネルが点灯します。
- m** GUIインジケータ
設定中に点灯します。(36、41ページ)
- n** メッセージ表示部
再生時間など各種メッセージが表示されます。
- o** リピートインジケータ
リピート再生中に点灯します。(28ページ)
- p** アングルインジケータ
マルチアングルの場面の再生中に点灯します。(30ページ)
- q** 一時停止インジケータ
一時停止中に点灯します。(24ページ)
- r** 再生インジケータ
再生中に点灯します。(22ページ)
- s** プログレッシブインジケータ
コンポーネントの設定が「プログレッシブ」のときに点灯します。(57ページ)

各部の名称 (リモコン)



A ライトボタン [LIGHT]

このボタンを押すと、リモコンの白いボタンが数秒間点灯します。

B 数字キー

選曲や、視聴制限のための暗証番号の入力などに使います。(25ページ)

C HDMIボタン

HDMIのオン/オフを切り換えます。(37ページ)

D ビデオ オフボタン [VIDEO OFF]

映像出力のオン/オフを切り換えます。(32ページ)

E 再生エリアボタン [PLAY AREA]

DVDオーディオまたはハイブリッドのスーパーオーディオCDをセットした状態で停止中に押すと、再生エリアを切り換えます。(27ページ)

F 2チャンネル/マルチチャンネルボタン [2CH/MULTI]

アナログ出力の2チャンネル/マルチチャンネルを切り換えます。(43ページ)

G スローボタン [SLOW]

スロー再生に使用します。(31ページ)

H スキャンボタン [SCAN]

早送り/早戻しに使用します。(26ページ)

I 停止ボタン(■)

再生を停止します。(24ページ)

J 再生ボタン(▶)

ディスクを再生します。(22ページ)

K メニューボタン [MENU]

メニュー画面付のDVDがセットされているときにこのボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。(23ページ)

L 方向ボタン(上下左右)とENTERボタン

メニュー画面や設定画面で使います。方向ボタンで項目を選択して、ENTERボタンで確定します。

M セットアップボタン [SETUP]

設定画面を表示します。(41ページ)

N オーディオボタン [AUDIO]

再生中にこのボタンを押すと、音声切り替わります。(29ページ)

O 画質ボタン [PICTURE]

このボタンを押すたびに、画質モードのメモリー1、メモリー2、メモリー3、リファレンスが切り替わります。46ページの手順で、好みの画質をあらかじめ登録しておいてください。

P オープン/クローズボタン(▲)

ディスクトレイを開閉します。(24ページ)

Q クリアボタン [CLEAR]

数字キーを押し間違えたときなどに使います。

R ディスプレーボタン [DISPLAY]

再生中または停止中にこのボタンを押すと、画面とディスプレイの表示が切り替わります。(33ページ)

S FLディマーボタン [FL DIMMER]

本体のディスプレイの明るさを調節できます。(32ページ)

T リPEATボタン [REPEAT]

ディスクのリPEAT再生に使用します。(28ページ)

U リップシンクボタン [LIP SYNC]

DVDの映像と音声のずれを調節する時に使います。(31ページ)

V グループ/タイトルボタン [GROUP/TITLE]

前または後ろのグループ/タイトルにスキップします。(27ページ)

W スキップボタン(◀◀/▶▶)

前または後ろのトラック/チャプターにスキップします。(25ページ)

X 一時停止ボタン(II)

再生を一時停止します。DVDビデオ/ビデオCDの場合は静止画になります。(24ページ)

Y トップメニューボタン [TOP MENU]

メニュー画面付のDVDがセットされているときにこのボタンを押すと、最上層のメニュー画面が表示されます。(23ページ)

Z リターンボタン [RETURN]

設定画面やメニュー画面が表示されているときにこのボタンを押すと、一つ前の項目に戻ります。ビデオCDの再生中は、メニュー画面に戻ります。(23、41ページ)

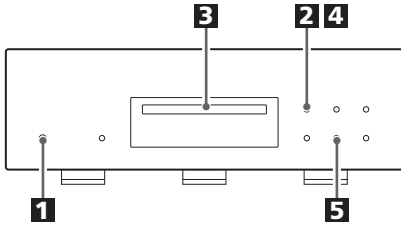
a サブタイトルボタン [SUBTITLE]

DVDビデオの再生中にこのボタンを押すと、字幕が切り替わります。(29ページ)

b アンクルボタン [ANGLE]

マルチアンクルのDVDビデオの再生中に、アンクルを切り替えます。(30ページ)
DVDビデオの字幕の明るさの切り換えにも使います。(30ページ)

再生

**1** 本体の電源ボタンを押す。

POWER



電源ボタンの周囲とディスプレイが点灯します。

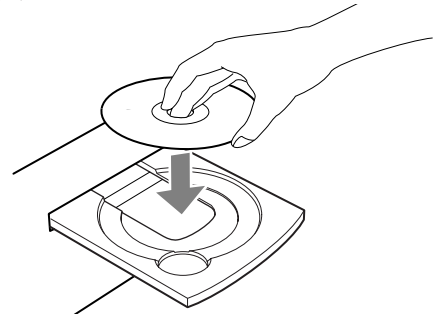
2 OPEN/CLOSEボタン(▲)を押す。

ディスクトレイが手前に出ます。

OPEN/CLOSE



- 本機はメカニズムの構造上、トレイが開く前にピックアップを最外周に移動しますので、トレイが開くまでに多少時間がかかります。

3 ディスクのレーベル面を上にしてトレイの中央にのせる。

- 両面に記録されたディスクのときは、見たい面を下にしてください。
- ディスクが中央のガイドから外れた状態でトレイを閉じると、ディスクが中で引っかかりトレイが開かなくなることがありますので、ディスクは必ずトレイの中央のガイドにしっかり合わせて置いてください。

4 OPEN/CLOSEボタン(▲)を押す。

OPEN/CLOSE



ディスクトレイが閉まります。指を挟まないようにご注意ください。

ディスクによっては、1曲目から自動的に再生が始まります。

- ディスクの読み込みには多少時間がかかります。

5 PLAYボタン(▶)を押す。

再生が始まります。

PLAY



ディスクによっては、メニュー(選択画面)が表示されます。メニューが表示された場合は次のページをお読みください。

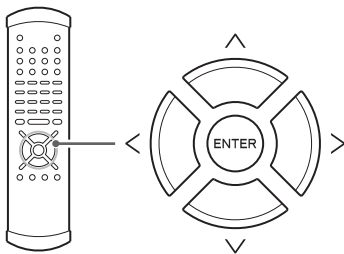
メニュー画面が表示されたとき

メニュー画面付きDVDやプレイバックコントロール(PBC)付きビデオCDでは、メニュー画面が表示されます。

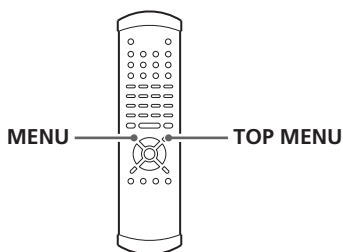
- メニュー画面の形式・操作方法はディスクによって異なります。

例：メニュー画面付きDVD

リモコンの方向ボタンで見たい項目を選んでENTERボタンを押してください。ディスクによっては、数字キーで選択できることもあります。(見たい項目の数字キーを押してから、ENTERボタンを押してください)



メニュー画面に戻るには

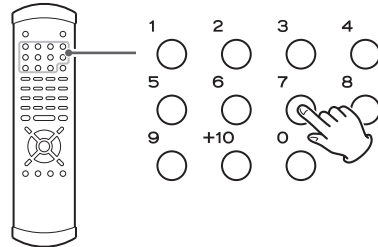


再生中にメニュー画面を表示したいときは、MENUボタンを押してください。トップメニュー(ディスクの一番上の階層のメニュー)に戻りたいときは、TOP MENUボタンを押してください。(ディスクによって異なります)

- ディスクによっては、再生中にMENUボタンまたはTOP MENUメニューボタンを押すと最初のチャプターに戻って再生を始めることがあります。
- VRフォーマットで記録されたDVD-RWディスクについては一部対応できない機能があります。

例：プレイバックコントロール(PBC)付きビデオCD

見たい項目の数字キーを押してください。



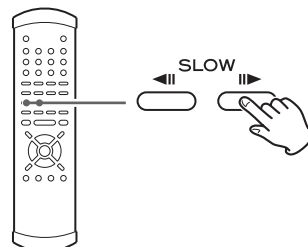
- ビデオCDでメニューが複数のページにまたがっているときは、スキップボタン(◀◀/▶▶)で改ページできます。
- ビデオCDのPBC再生中にRETURNボタンを押すとメニュー画面に戻ります。
- PBC再生中は、以下のボタンは機能しません。
DISPLAY、REPEAT

PBCを使わずに再生するには

停止中に、スキップボタン(◀◀/▶▶)または数字キーを使って曲番を選んでからPLAYボタンを押して再生すると、PBCがオフになります。

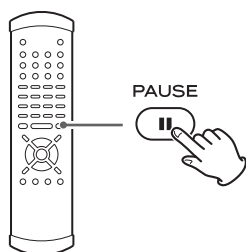
DVDオーディオの静止画の切換

DVDオーディオの中には、静止画が入っているものがあります。静止画の種類によっては、SLOWボタン(◀◀/▶▶)で静止画を前または逆方向に送ることができます。



再生 (続き)

一時停止するには (画像を静止させるには)

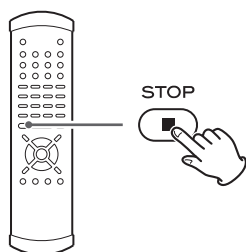


再生中にPAUSEボタン(⏸)を押すと再生が一時停止し、本体のPAUSEボタンの周囲が青く点灯します。DVDビデオ/ビデオCDの場合は静止画になります。

PLAYボタン(▶)またはPAUSEボタン(⏸)を押すと、再び再生が始まります。

- 静止画がブレる場合は、「スチルモード」の設定を「フィールド」にしてみてください。(57ページ)
- DVDオーディオの静止画の切り換えについては、23ページをお読みください。

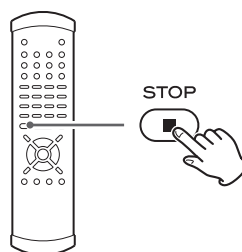
再生をやめるには



STOPボタン(■)を押すと再生が停止し、本体のSTOPボタンの周囲が青く点灯します。

- DVDビデオ、またはビデオCDの再生中にSTOPボタン(■)を押すと、リジューム状態になります。もう一度STOPボタン(■)を押すと完全に停止します。

リジューム機能



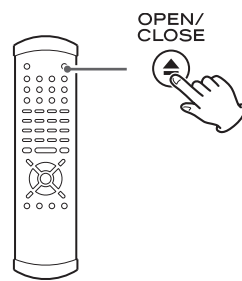
DVDビデオ、またはビデオCDの再生中にSTOPボタン(■)を押すと、再生が停止してディスプレイに「RESUME」が表示されます。

PLAYボタン(▶)を押すと、続きから再生します。

- 以下のボタンを押すと、リジューム機能は解除されません。

STOPボタン(停止中に押した場合)
OPEN/CLOSEボタン(▲)

ディストレーを開閉するには

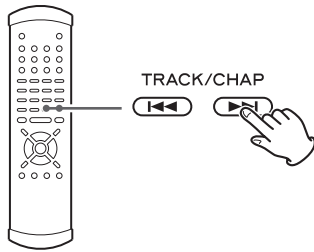


OPEN/CLOSEボタン(▲)を押すとトレーが開き、もう一度押すと閉まります。

- ディスクの再生中にOPEN/CLOSEボタンを押した場合は、トレーが開くのに数秒かかります。

見たい場面から再生するには

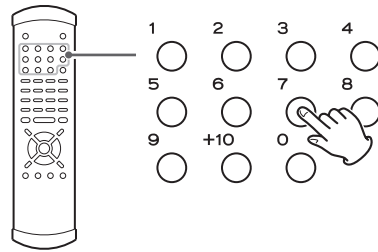
スキップするには



再生中に◀◀ / ▶▶ ボタンを押すと、前または後ろのチャプター(トラック)にスキップして再生を始めます。

- ◀◀ ボタンを1回押すと、チャプターまたはトラックの頭に戻ります。それより前に戻りたいときは、◀◀ ボタンを続けて押してください。
ただし、チャプターまたはトラックの最初の1秒以内に◀◀ ボタンを押した場合は、前のチャプターまたはトラックにスキップします。
- 停止中または一時停止中に◀◀ / ▶▶ ボタンを押すと、選んだチャプターまたはトラックの頭で一時停止状態になります。
ビデオCDのPBC再生中は、◀◀ ボタンを押してもスキップしません。また、PBC再生中はリジューム状態で▶▶ ボタンを押してもスキップしません。一時停止中に▶▶ ボタンを押すと、選んだチャプターまたはトラックの再生を始めます。

数字キーで選んで再生するには



DVDの場合

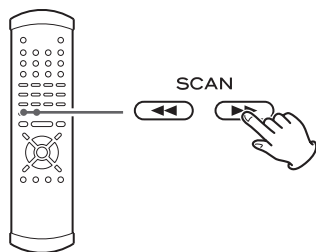
再生中または停止中に数字キーを押すと、そのチャプター(またはトラック)から再生を始めます。停止中の場合は、最初のタイトル(またはグループ)のチャプター(またはトラック)から選ばれます。

ビデオCD/CD/スーパーオーディオCDの場合

再生中または停止中に数字キーを押すと、そのトラックから再生を始めます。

見たい場面から再生するには

早送り/早戻しするには(スキャン)



再生中にリモコンの ◀▶ ボタンを押すと早送り/早戻しができます。見たい部分が見つかったら、PLAY ボタン(▶)を押してください。

◀▶ ボタンをくり返し押すと、早送り/早戻しの速度が3段階に変わります。

▶▶ : 早送り(1)→早送り(2)→早送り(3)
→PLAY (通常の再生)

◀◀ : 早戻し(1)→早戻し(2)→早戻し(3)
→PLAY (通常の再生)

- 画面に表示される数字が大きいほど早くなります。
- 本体の場合は、再生中にスキップボタン(◀◀/▶▶)を1秒以上押すと早送り/早戻しの速度が変わります。
- DVDビデオおよびビデオCDは、早送り/早戻し中の音は聞こえません。

DVDオーディオ/ビデオCD(PBC再生)の場合

トラックの終わりまで行くと、早送りはキャンセルされて、次のトラックから通常の再生を始めます。最後のグループの最後のトラックの終わりまで行った場合は、再生を停止します。

トラックの頭まで行くと、早送りはキャンセルされて、そのトラックから通常の再生を始めます。

ただし、メニュー画面に移った場合は、早送り/早戻しは働きません。

ビデオCD(PBCオフ)/CD/スーパーオーディオCDの場合

最初のトラックの頭まで行くと、早送りはキャンセルされて、最初のトラックから通常の再生を始めます。最後のトラックの終わりまで行くと、早送りはキャンセルされて、再生は停止します。

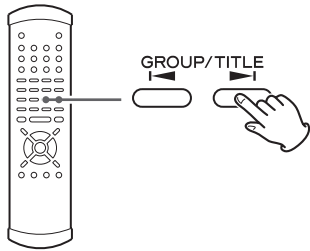
DVDビデオの場合

最初のチャプターの頭まで行くと、早送りはキャンセルされて、通常の再生を始めます。

最後のチャプターの終わりまで行くと、早送りはキャンセルされて、次のタイトルから通常の再生を始めます。最後のタイトルの最後のチャプターの終わりまで行った場合は、再生を停止します。

ただし、メニュー画面に移った場合は、早送り/早戻しは働きません。

グループ/タイトルの切換



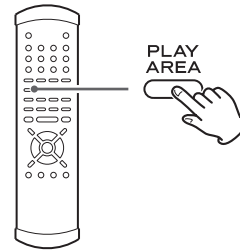
DVDは、リモコンのGROUP/TITLEボタン(◀▶)を押して、タイトルまたはグループを選ぶことができます。

再生中に押すと、選んだタイトルまたはグループに切り換わって再生を始めます。

停止中または一時停止中に押すと、選んだタイトルまたはグループの頭で一時停止状態になります。

- ディスクによっては、停止中または一時停止中に押すと、選んだタイトルまたはグループの再生を始めます。

再生エリアの切換



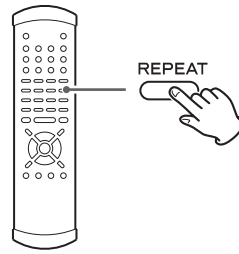
DVDオーディオディスクには、DVDビデオディスクとして読み込むことが可能なものがあります。

また、スーパーオーディオCDには、2チャンネルとマルチなど複数のエリアを持つものや、スーパーオーディオCDとCDの2層構造になっているものがあります。

停止中にリモコンのPLAY AREAボタンを押すと、DVDオーディオ、またはスーパーオーディオCDの再生エリアを切り換えることができます。

- DVDオーディオディスクを、DVDオーディオディスクとして読み込んだ場合とDVDビデオディスクとして読み込んだ場合では、再生できる内容が変わることがあります。

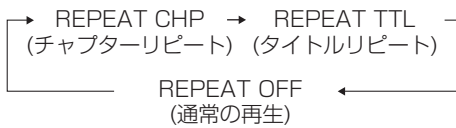
リピート再生



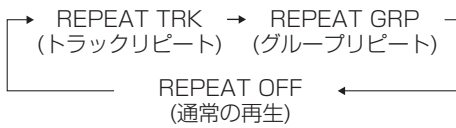
再生中にREPEATボタンを押すと、リピートモードが変わります。

ディスプレイの表示

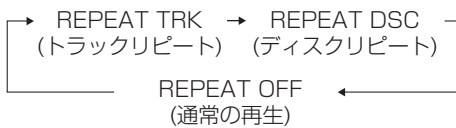
DVDビデオ



DVDオーディオ



CD/ビデオCD(PBCオフ)/スーパーオーディオCD



- 再生を停止するとリピート再生は解除されます。
- ディスクによっては、リピート再生できないことがあります。その場合は禁止マークが表示されます。
- ビデオCDのPBC再生中はリピート再生できません。

チャプターリピート/トラックリピート

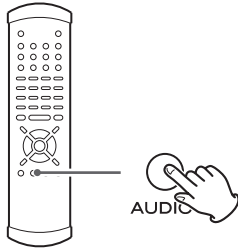
再生中のチャプターまたはトラックがくり返し再生されます。リピート再生中に他のチャプターを選ぶと、そのチャプターがくり返し再生されます。

タイトルリピート/グループリピート/ ディスクリピート

再生中のタイトル/グループ/ディスクがくり返し再生されます。

- DVDでは、再生中のタイトル(グループ)をくり返し再生します。
- ビデオCD、CD、スーパーオーディオCDの場合は、全てのトラックをくり返し再生します。

音声を切り換えるには

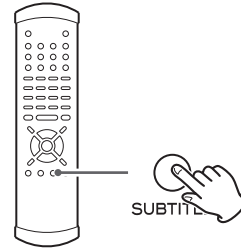


DVDビデオには、ドルビーデジタルやPCMなどの音声がいろいろな言語で記録されています。また、DVDオーディオには、2チャンネルとマルチチャンネルの音声などが同時に記録されている場合があります。ビデオCDの場合は、L(左)、R(右)、LR(ステレオ)を切り換えることができます。お好みの音声を選んでお楽しみください。

再生中にAUDIOボタンを押すたびに、音声が切り換わります。

- ディスクによっては、メニュー画面を使わないと音声を切り換えられないことがあります。
- ディスクによっては音声を切り換えられないものがあります。その場合は禁止マークが表示されます。
- 音声が入りしか記録されていないDVDは音声を切り換えることはできません。
- 音声を切り換えたときに画像が一瞬静止することがあります。
- スーパーオーディオCD、CDの音声を切り換えることはできません。
- DVDオーディオには、音声がグループによって分けられていたりするものがあります。その場合は、グループを切り換えてください。(27ページ)

DVDの字幕を選ぶには



複数の字幕言語が記録されたDVDビデオでは、字幕言語を選ぶことができます。

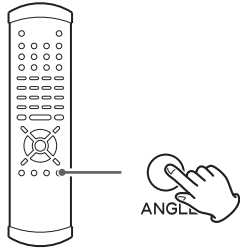
再生中にSUBTITLEボタンを押すと、字幕言語が切り換わります。お好みの言語が表示されるまで、字幕ボタンをくり返し押してください。

字幕を消したい場合は

SUBTITLEボタンをくり返し押してオフを選んでください。ただしディスクによっては、字幕を消せないことがあります。

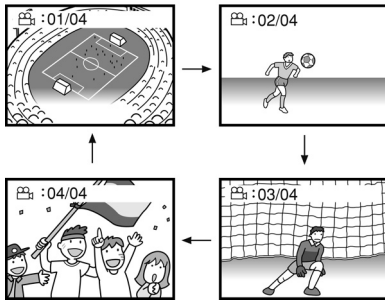
- 字幕言語を切り換えた直後は字幕が表示されないことがあります。数秒間お待ちください。
- 字幕言語が記録されていない、または1つしか記録されていないときは字幕言語が切り替わりません。
- 「字幕表示」の設定を「OFF」にしておくと、字幕を消すことができます。(49ページ)
- ディスクによっては、メニュー画面を使わないと字幕を切り換えられないことがあります。
- ディスクによっては字幕言語が切り換えられないものがあります。その場合は禁止マークが表示されます。


マルチアングル





見たい方向からの映像を選ぶ

複数の方向(アングル)から映された映像が記録されたDVDでは、アングルを選ぶことができます。

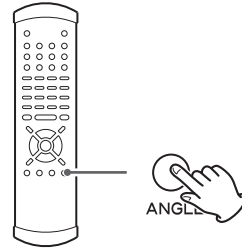


複数のアングルが記録されているディスクは、ディスクのジャケットに  マークが付いています(マークの中の数字は最大収録アングル数)。

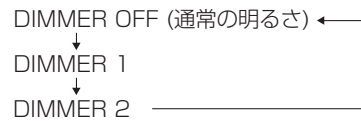
本機でマルチアングルが記録されている箇所を再生すると、画面にアングルマーク( とアングル数)が表示されます。アングルが記録されている箇所の再生中にANGLEボタンを押して、アングルを切り換えてください。


- 一時停止中にアングルを切り換えることはできません。
- 画面のアングルマークを消したいときは、58ページをご覧ください。
画面のアングルマークを消しても、ディスプレイの  インジケーターは点灯します。
- ディスクによってはアングルを切り換えられないことがあります。その場合は禁止マークが表示されます。

字幕の明るさを変えるには

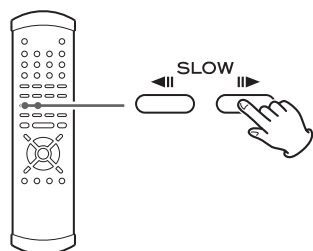


DVDの再生中にANGLEボタンを押すと、字幕の明るさを変えることができます。



- マルチアングルが記録されている箇所の再生中( の点灯中)は、ANGLEボタンをアングルの切り換えに使用しますので、字幕の明るさを変えることはできません。

スロー再生/コマ送り



スロー再生

DVDまたはビデオCDの再生中にSLOWボタン(◀|||/|||▶)を押すと、前または逆方向にスロー再生します。SLOWボタン(◀|||/|||▶)を押すたびに、スロー再生の速さが変わります。

PLAYボタン(▶)を押すと通常の再生に戻ります。

▶ : ▶ 1/8 → ▶ 1/4 → ▶ 1/2
→PLAY (通常の再生)

◀ : ◀ 1/20 → ◀ 1/16 → ◀ 1/12
→PLAY (通常の再生)

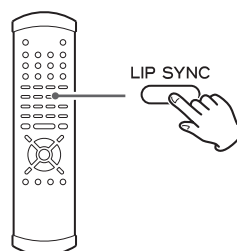
コマ送り

一時停止中にSLOWボタン(◀|||/|||▶)を押すたびに、画像が前または逆方向にコマ送りされます。

PLAYボタン(▶)を押すと通常の再生に戻ります。

- コマ送り/スロー再生中の音声は聞こえません。
- ビデオCDの場合は、逆方向にコマ送り/スロー再生することはできません。
- ディスクによっては、スロー再生できないことがあります。その場合は禁止マークが表示されます。
- 静止画がブレる場合は、「スチルモード」の設定を「フィールド」にしてみてください。(57ページ)

リップシンク機能

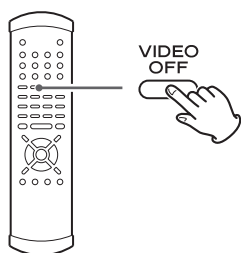


DVDの映像と音声のずれを調節することができます。

LIP SYNCボタンを押すと、リップシンクの数値が画面に表示されます。左右の方向ボタンで調節してください。基準値は0です。数字が大きいほど音声が後へずれます。一度調節すると、電源を切っても設定は変わりません。

- リップシンクを終了するには、もう一度LIP SYNCボタンを押してください。
- 画面に他の表示が出るような操作をすると、リップシンクは終了します。
- メニュー画面などで横へのカーソルの移動が必要な時は、リップシンクを終了してください。

映像出力のオン/オフ

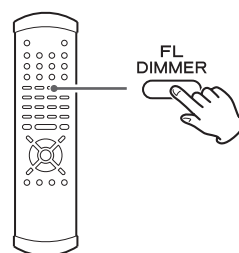


VIDEO OFFボタンを押すたびに、映像出力のオン (VIDEO ON)/オフ (VIDEO OFF)が切り換わります。

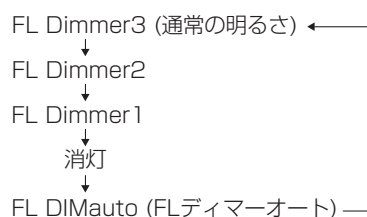
スーパーオーディオCDを聴くときなど、映像が必要ないときにオフにすると、音声出力への微小ノイズを低減することにより、より良い音質でお楽しみいただけます。

- 電源を切ると、ビデオオフの設定は解除されます。

FLディマー

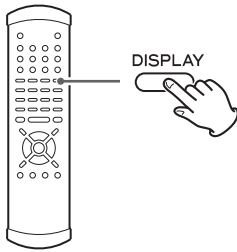


FL DIMMERボタンを押すたびに、本体のディスプレイとボタン照明の明るさが変わります



- 「消灯」を選ぶと、ディスプレイとインジケータが消灯します。消灯した状態で電源をオフにすると消灯は解除され、次に電源を入れたときはDimmer 1の明るさになります。
- 「FL DIMAuto」を選んだ場合、再生中はディスプレイとインジケータが消灯します。停止中はDimmer 1の明るさになります。
- 消灯中またはFL DIMAuto中に再生ボタンなどを押すと、約3秒間だけディスプレイが点灯します。

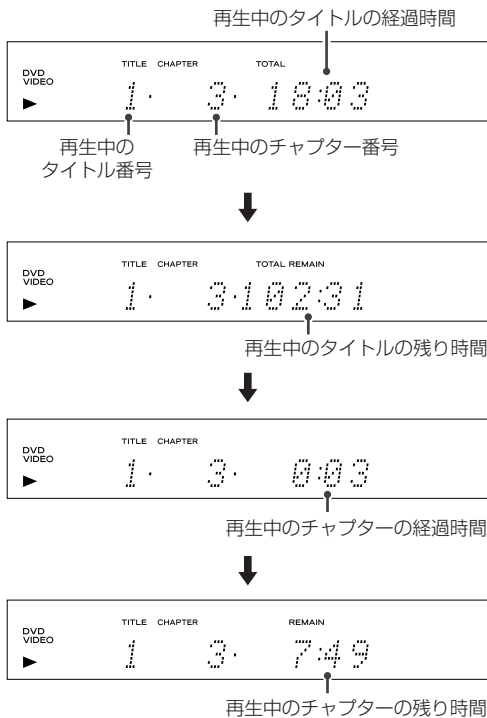
ディスクの情報を見るには



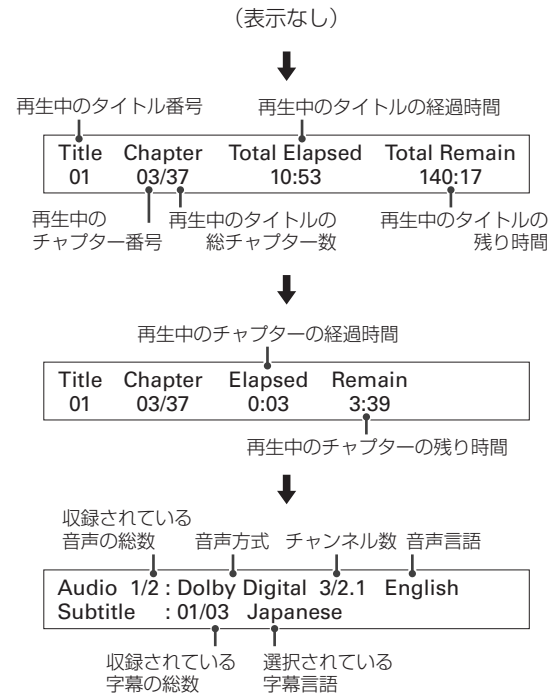
再生中にDISPLAYボタンを押すと、画面の表示が次のように切り換わります。

- 本体のディスプレイの表示も切り換わります。
- 再生が停止すると、表示は最初の状態に戻ります。
- 「画面表示」を「OFF」にすると、DISPLAYボタンを押しても画面には表示されません。(58ページ)

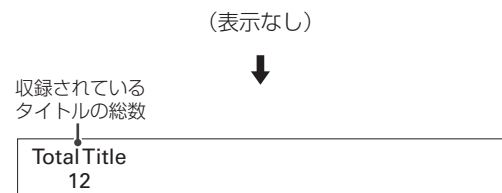
DVDビデオ (再生中：本体のディスプレイ)



DVDビデオ (再生中：画面表示)



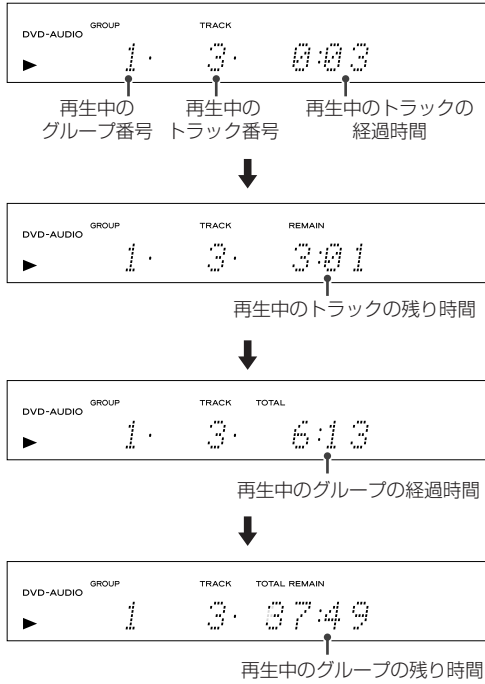
DVDビデオ (停止中：画面表示)



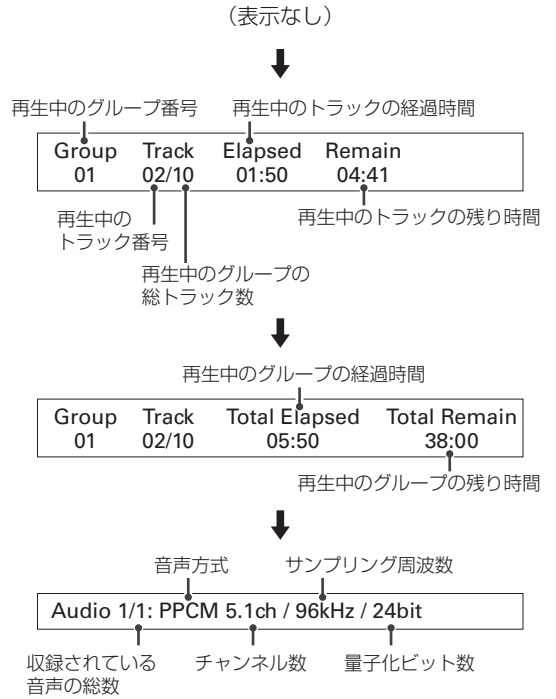
- DVDビデオの停止中は、本体のディスプレイの表示は切り換わりません。

ディスクの情報を見るには

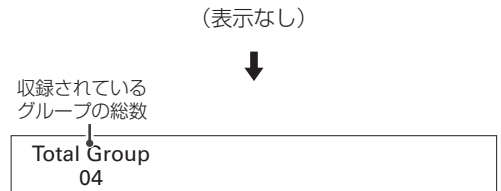
DVDオーディオ (再生中：本体のディスプレイ)



DVDオーディオ (再生中：画面表示)

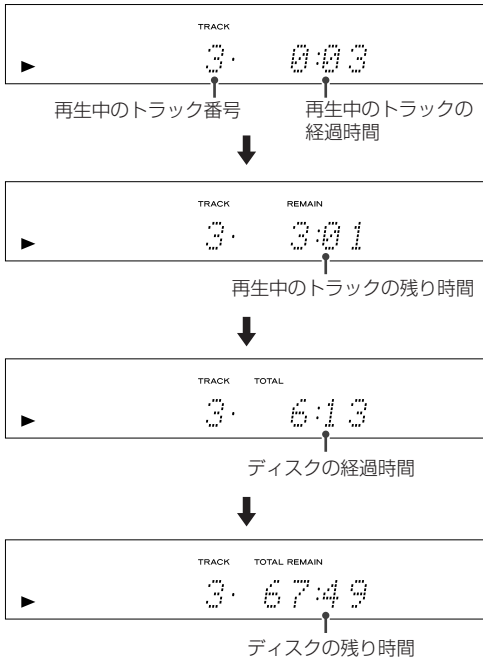


DVDオーディオ (停止中：画面表示)



- DVDオーディオの停止中は、本体のディスプレイの表示は切り換わりません。

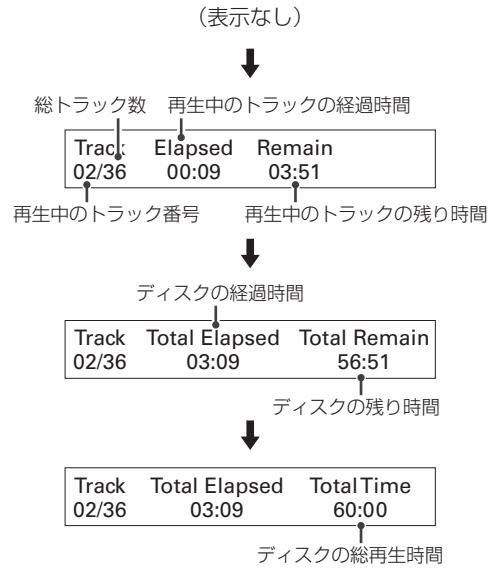
スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD
(再生中：本体のディスプレイ)



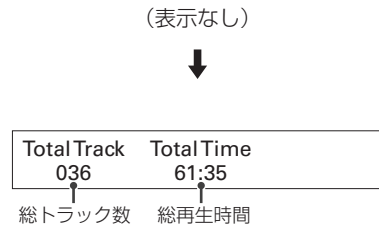
スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD
(停止中：本体のディスプレイ)



スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD
(再生中：画面表示)

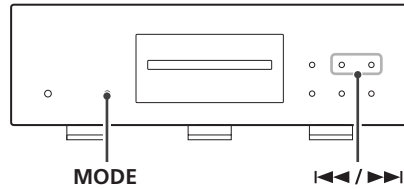


スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD
(停止中：画面表示)



- ビデオCDのPBC再生中はディスク情報を表示することはできません。

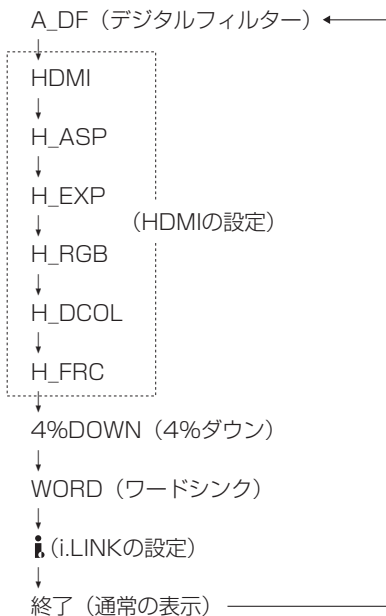
デジタルフィルター、HDMI、4%ダウン、ワードシンク、i.LINKの設定



1 停止中にMODEボタンをくり返し押し、変更する項目を選ぶ。



MODEボタンを押す度に、ディスプレイの表示が変わります。



10秒以上放置すると、設定モードは解除されて通常の表示に戻ります。

2 ◀▶/▶▶ ボタンを使って、設定を変更する。



各設定内容については、37～40ページをお読みください。

3 通常の表示になるまでMODEボタンをくり返し押し、設定を終了する。



または、10秒以上放置するか、停止ボタンを1回押すと、設定を終了して通常の表示に戻ります。

- 設定を終了しないで電源を切ると、故障の原因になります。
- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

A_DF (デジタルフィルター)

デジタルフィルターのオンとオフを切り換えます。

オン

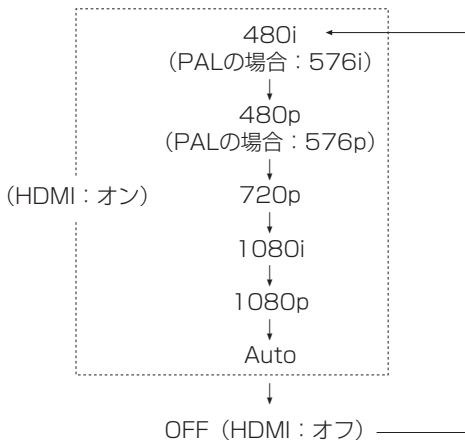
最大で8倍のアップコンバートを行い、D/Aコンバートされます。重厚でしっかりした音色が特徴です。

オフ

アップコンバートを行いません。
リアリティに富んだ、自然な音色が特徴です。

HDMI

HDMI映像出力フォーマットを切り換えます。



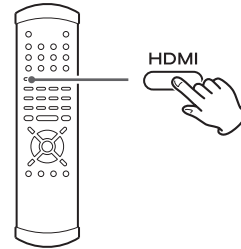
(i: インターレース、p: プログレッシブ)

HDMI端子のある機器と接続している場合、通常は「Auto」に設定してください。受信側が推奨するフォーマットを自動的に選択します。

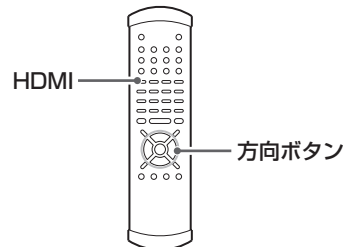
HDMI端子がない機器のHDCP対応のDVI端子と接続している場合は、「Auto」に設定すると自動的に1080pになります。

- HDMIをオンにすると、コンポーネント映像出力端子からは、プログレッシブに設定していてもインターレースの信号が出力されます。プログレッシブのコンポーネント映像を表示する場合は、HDMIをオフにしてください。

- リモコンのHDMIボタンを押すたびに、「オン(このページの「HDMI」で選択した出力フォーマット)」と「オフ」が切り換わります。



- リモコンを使ってHDMI映像出力フォーマットを切り換えることもできます。リモコンのHDMIボタンを押してHDMIをオンにすると、フロントパネルのディスプレイに「HDMI>***」が表示されます。表示が消えないうちに方向ボタン(上下)を押して出力フォーマットを切り換えてください。



デジタルフィルター、HDMI、4%ダウン、ワードシンク、i.LINKの設定 (続き)

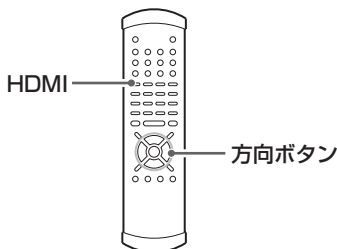
H_ASP

HDMI出力画面のアスペクト比を切り換えます。「AUTO」、「FULL」または「4:3」を選んでください。

通常は「AUTO」に設定してください。ディスクに記録された情報に従って、自動的に「FULL」または「4:3」に切り換わります。ただし、ディスクによっては正常に切り換わらないことがあります。その場合は「FULL」または「4:3」を選んでください。

HDMI端子に接続しHDMI映像出力フォーマットを720p、1080i、または1080pに設定した場合、アスペクト比4:3のDVDを再生すると映像が横長になることがあります。このようなときは、テレビ側の設定を変更してください。テレビで切り換えができないときは、HDMI出力画面のアスペクト比を「4:3」に切り換えてみてください。

- リモコンを使って切り換えることもできます。リモコンのHDMIボタンを押してHDMIをオンにすると、フロントパネルのディスプレイに「HDMI>***」が表示されます。表示が消えないうちに方向ボタン(左)を押して切り換えてください。



H_EXP

HDMIレベルを切り換えます。「EXP (Expand)」または「NORM (Normal)」を選んでください。

HDMI端子に接続した場合、テレビ(モニター)の種類によっては黒が浮くことがあります。このようなときは、HDMIレベルを「EXP」に切り換えてみてください。

- リモコンを使って切り換えることもできます。リモコンのHDMIボタンを押してHDMIをオンにすると、フロントパネルのディスプレイに「HDMI>***」が表示されます。表示が消えないうちに方向ボタン(右)を押して切り換えてください。

H_RGB

HDMI端子から出力する映像信号を切り換えます。「RGB」または「YCbCr」を選んでください。

- YCbCrを選んでも、HDMIケーブルで接続した機器がYCbCrに対応していない場合は、自動的にRGBになります。
- HDMI-DVI変換ケーブルを使って接続している場合は、RGBになります。

H_DCOL (Deep Color)

HDMIのDeep Colorモードを切り換えます。

ON:

HDMI端子に接続した機器が10ビットに対応している場合は、10ビットで出力します。接続した機器が10ビットに非対応で、12ビットに対応している場合は、12ビットで出力します。ただし、伝送されるデータの精度は10ビットと同じです。接続した機器が10ビットにも12ビットにも対応していないときは、8ビットで出力します。

OFF:

常に8ビットで出力します。

H_FRC (フレームレートコンバーター)

DVDディスクのフレームレートを変換する機能です。HDMI端子に接続した機器が72Hzまたは75Hzの垂直同期周波数に対応している場合のみ、使用できます。

「NORM(通常フレームレート)」または「72Hz」を選んでください。

「72Hz」を選ぶと、480P/576p、720p、1080iの出力信号の垂直周波数を72Hz(NTSC)または75Hz(PAL)に変換して出力します。

もともとフィルムで撮影された映画は24コマ/秒ですので、24の倍数である72Hzに変換すると、動きが映画らしく見えることがあります。

HDMI端子に接続した機器が72Hzまたは75Hzに対応していないと、画像が乱れます。その場合は「NORM」を選んでください。

4%DOWN (4%ダウン)

4%ダウンモードのオンとオフを切り換えます。

PALのDVDディスクは25フレーム/秒で再生されますが、もともとフィルムで撮影された映画は24コマ/秒ですので、そのまま再生すると音声のピッチが高くなります。

4%ダウンモードは、PALのDVDディスクの再生速度を4%遅くして、24コマ/秒の速度で再生するための特殊なモードです。4%ダウンモードでのデジタル音声出力/映像出力を正しく受信できる機器は限定されます。

- 4%ダウンモードは、PALのDVDディスクの再生時しか機能しません。
- 4%ダウンをオンにすると、MODEボタンの周囲がオレンジに光ります。4%ダウンとワードシンクの両方がオンのときは、紫に光ります。
- S映像出力端子(S-VIDEO)/映像出力端子(VIDEO)からの出力はオフになります。
- 4%ダウンモードでワードシンクさせる場合は、通常より4%低いクロックを入力してください。(エンテリックG-0/G-0sと接続するときは、「PAL FILM」モードを選んでください)
- このモードで再生すると、音程が低くなります。

WORD (ワードシンク)

ワードシンクのオンとオフを切り換えます。

エンテリックD-03やG-0/G-0sなど、外部同期信号(ワードクロック)を出力する機器と接続し、システムの同期(クロック)を一元化して再生するときや、内部クロックのかわりに高精度な外部クロックでシンク動作させるときは「オン」にしてください。

- 本機は以下のクロックに対応しており、入力された信号によって自動的に切り換わります。
44.1kHz、48kHz、88.2kHz、
96kHz、176.4kHz、192kHz、
100kHz (ユニバーサルクロック)

4%ダウンモードがオンの場合は、これらの96%の周波数になります。

- オンにすると、MODEボタンの周囲が点滅して外部クロックをサーチします。クロックを感知してロックすると点灯(青)に変わり、外部同期による再生が可能になります。
- あらかじめWORD SYNC端子を接続しておいてください。

デジタルフィルター、HDMI、4%ダウン、ワードシンク、i.LINKの設定 (続き)

i (i.LINK)

i.LINK(AUDIO)端子をアンプまたはD/Aコンバーターと接続している場合は、i.LINK(AUDIO)端子から出力する信号の種類を選ぶ必要があります。

「60958」、「PCM」または「OFF」を選んでください。

i.LINK端子を使用する場合、「60958」または「PCM」を選び、「デジタル出力」(43ページ)は「ON」に設定してください。

60958

DVDビデオ/ビデオCD/CDの再生時

設定画面の「デジタル音声出力」で選んだ信号(ストリームまたはPCM)が出力されます。(55ページ)

- スーパーオーディオCDの再生時はDSD信号が、DVDオーディオの再生時はリニアPCMデジタル信号が出力されます。

PCM

DVDビデオ/ビデオCD/CDの再生時

リニアPCMデジタル信号が出力されます。

ドルビーデジタル/DTS/MPEG信号はリニアPCMに変換して出力します。

本機のi.LINK端子をドルビーデジタル/DTS/MPEGのデコード機能のない機器(エソテリックのアンプAZ-1など)と接続した場合は、「PCM」に設定してください。

- AVアンプによっては、このモードの信号を入力したときに「DVD-Audio」と表示することがあります。
- スーパーオーディオCDの再生時はDSD信号が、DVDオーディオの再生時はリニアPCMデジタル信号が出力されます。

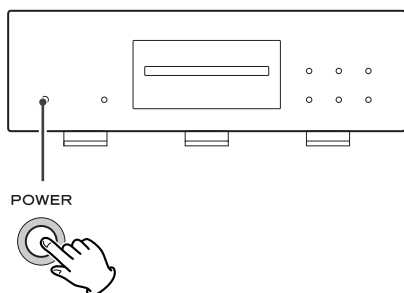
OFF

i.LINK端子から出力しません。i.LINK端子を使用しないときは、OFFにしてください。

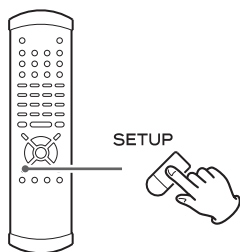
- DVDオーディオまたはスーパーオーディオCDを再生するときは、「60958」と「PCM」のどちらかに設定しても同じ信号を出力します。
- 音声の出力に問題がある場合は、接続したアンプやD/Aコンバーターの取扱説明書で、対応しているフォーマットをご確認ください。
- i.LINK端子で接続された受信側の機器がフローレートコントロールに対応している場合は、受信側の機器をフローレートコントロールモードで動作させることができます。
- DVDビデオやビデオCDなどの動画再生時は、映像と音声のズレを防ぐためにフローズステータスは自動的にオフになります。

設定画面について

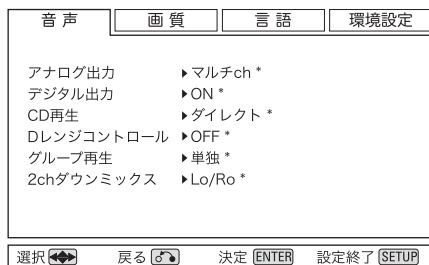
1 本機とテレビの電源を入れる。



2 SETUPボタンを押す。



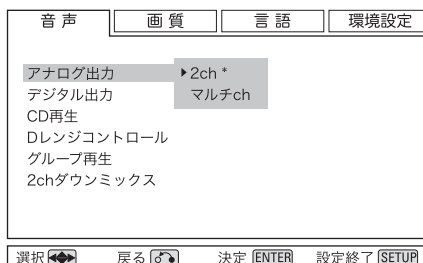
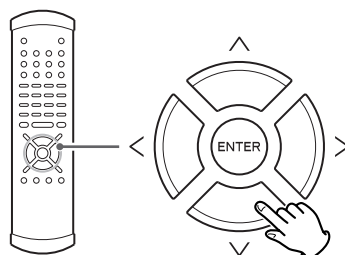
設定画面が表示されます。



- ディスクの再生中でも設定画面は表示できますが、変更できない項目があります。その場合はSTOPボタンを押して再生を停止してください。リジューム機能が働いているときはもう一度STOPボタンを押して完全に停止させてください。
- 設定を中断する場合は、もう一度SETUPボタンを押してください。

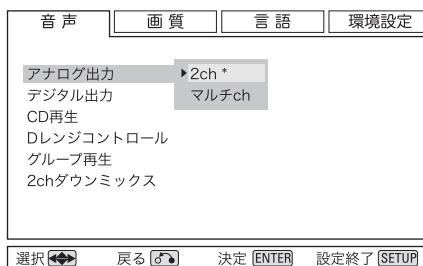
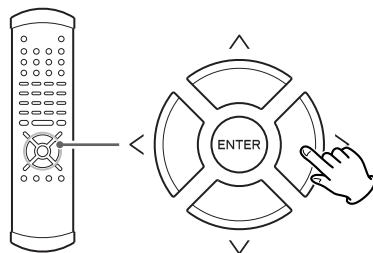
設定画面では、工場出荷時の設定に「*」が付いています。

3 方向ボタンで設定する項目を選ぶ。



- 画面を切り換えるときは、何も選択していない状態(カーソルが消えた状態)で方向ボタン(左右)を押してください。方向ボタン(左上)を押してカーソルを一番上に移動するか、RETURNボタンを数回押すと、カーソルが消えます。

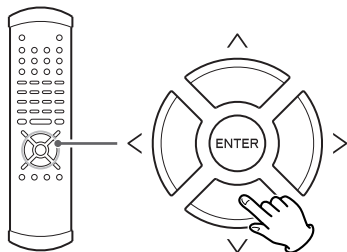
4 方向ボタン(右)を押して選択肢の欄にカーソルを移動する。



(次ページに続く→)

設定画面について (続き)

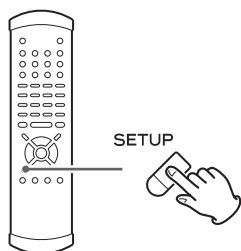
- 5** 方向ボタン(上下)で設定したい選択肢にカーソルを合わせてENTERボタンを押す。



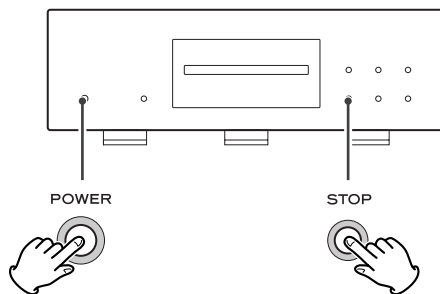
各設定内容については、43～59ページをお読みください。

複数の項目を設定する場合は、**3**～**5**の操作をくり返してください。

- 6** 設定が終わったら、SETUPボタンを押して設定を終了する。



工場出荷時の状態に戻すには



設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

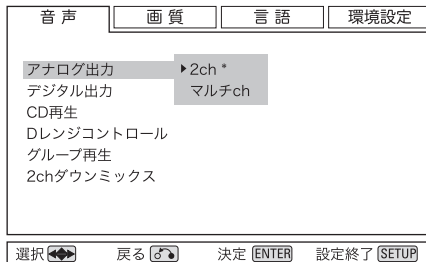
以下の操作をすると、設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

1. 電源をオフにする。
電源がオンだった場合は、オフにしてから30秒以上待ってください。
2. STOPボタンを押しながら電源ボタンを押す。
電源がオンになりディスプレイが点灯するまで、STOPボタンから指を離さないでください。

設定(音声) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

アナログ出力

[音声→アナログ出力]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

2ch :

アナログ音声出力端子とi.LINK(AUDIO)端子*とHDMI端子**から2チャンネルの音声を出力します。サラウンドの音声は、2チャンネルにダウンミックスして出力します。ダウンミックス中はDOWN MIXインジケータが点灯します。

マルチch :

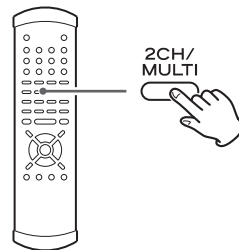
i.LINK(AUDIO)端子*、またはHDMI端子**にAVアンプを接続したときに選んでください。5.1チャンネルの独立した音声出力されます。

* : i.LINK(40ページ)を「PCM」に設定した場合のみ。

** : 「デジタル音声出力」(55ページ)の各項目を「PCM」に設定した場合のみ。

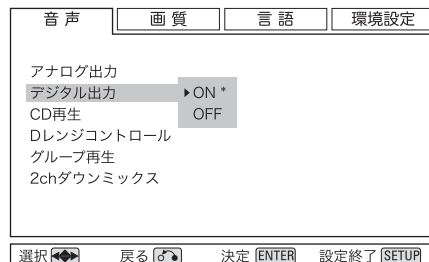
- 「マルチch」に設定すると、5.1チャンネルインジケータが点灯します。アナログ音声出力端子からはフロントL/Rの音声だけが出力されます。
- DVDオーディオによっては、ダウンミックスが禁止されていることがあります。その場合は、「2ch」に設定してもダウンミックスできません。DOWN MIXインジケータも点灯しません。
- 「スピーカー設定」を正しく行わないと、「マルチch」に設定しても5.1チャンネルの音声は正しく出力されません。お使いのスピーカーシステムに合わせて設定を行ってください。(51～54ページ)

- サラウンド非対応の機器のHDMI端子と接続した場合、「マルチch」に設定すると、ダウンミックスせずにフロントL/Rの音声だけが伝送されます。
- 「2ch」と「マルチch」を切り換えると、音量が変化します。
- 停止中にリモコンの2CH/MULTIボタンを押した場合も、「2ch」と「マルチch」が切り換わります。



デジタル出力

[音声→デジタル出力]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

ON :

デジタル出力端子とi.LINK(AUDIO)端子とHDMI端子から音声を出力します。これらの端子に機器が接続されているときは、「ON」にしてください。

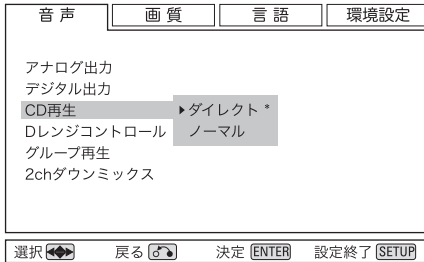
OFF :

デジタル出力端子とi.LINK(AUDIO)端子とHDMI端子から音声を出力しません。これらの端子を使わないときは「OFF」にすると、アナログ音声出力端子の音質への影響を抑えることができます。

設定(音声) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

CD再生

[音声→CD再生]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

ダイレクト：

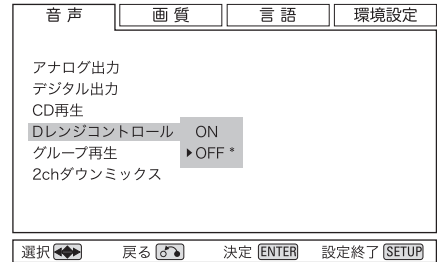
CDを再生する時に、スピーカー設定などの回路をバイパスします。通常はこちらを選択してください。

ノーマル：

DTS-CD(DTSデジタルサラウンド方式で記録されたCD)を再生する時は、こちらを選択してください。

Dレンジコントロール

[音声→Dレンジコントロール]



ダイナミックレンジコントロールのオンとオフを切り換えます。方向ボタンで「ON」または「OFF」を選んでENTERボタンを押してください。

ON：

「ON」にすると、ドルビーデジタル対応のディスクを再生するときに、ダイナミックレンジ(大小の音量差)を小さくして音を抑えることができます。会話などの音声が聞きづらい場合や、夜間など音を控えめにしたいときに便利です。

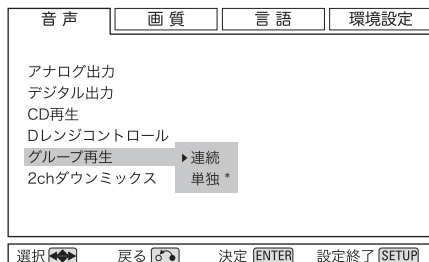
OFF：

ダイナミックレンジコントロールを使わずにそのままの音で再生します。

- ダイナミックレンジコントロールの効果は、再生するディスク、お使いのスピーカーやアンプによって異なります。

グループ再生

[音声→グループ再生]



DVDオーディオのグループの再生方法を切り換えます。方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

連続：

すべてのグループを続けて再生します。

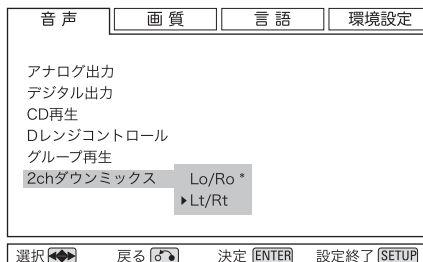
単独：

選択したグループだけを再生します。

- ディスクによっては、メニュー画面を使って、再生するグループを選択できます。
- 「単独」に設定した場合、早送りまたは頭出しで次のグループに移動することはできません。
- 「連続」に設定しても、メニュー画面に移った場合は、次のグループに移動することはできません。

2ch ダウンミックス

[音声→2ch ダウンミックス]



2チャンネルにダウンミックスする場合は、ミックスの方法を選んでください。

Lo/Ro：

通常のステレオ音声にダウンミックスされます。ステレオなどで再生する場合はこちらを選んでください。

Lt/Rt：

ドルビーサラウンドと互換性のある2チャンネル音声としてエンコードされます。

- 2チャンネル/マルチチャンネルの切り換えは、「アナログ出力」の設定で行ってください。(43ページ)
- DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの場合は、この設定は無視されて通常のステレオ音声(Lo/Ro)にダウンミックスされます。

設定(画質) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

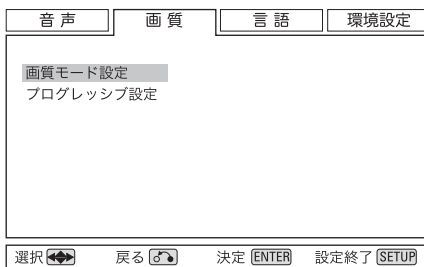
画質モード

[画質→画質モード]

各設定項目を細かく調整してお好みの画質にすることができます。

- 再生中または一時停止中に操作すれば、映像を見ながら画質を調整することができます。
- 従来の4:3のテレビでDVDを再生しているときに画質調整画面を表示させると、画面が一時的に乱れることがあります。故障ではありません。

1 方向ボタンで「画質モード」を選んでENTERボタンを押す。



2 方向ボタン(左右)で設定を選ぶ。

リファレンス：

標準的な画質です。

メモリー1/メモリー2/メモリー3：

お好みの画質に調節してメモリーに登録します。既に設定が登録されている番号を選んだ場合は、新しい設定が上書きされます。

3 ENTERボタンを押す。

「リファレンス」を選んだ場合は、前の画面に戻りますので、SETUPボタンを押して終了してください。

「メモリー1/2/3」を選んだ場合は、調整項目が表示されますので、4に進んでください。

4 方向ボタン(上下)で調整項目を選び、方向ボタン(左右)で設定を変える。

複数の項目を設定する場合は、4の操作をくり返してください。

シャープネス

画像の鮮明度を調整します。

コントラスト

画像のコントラストを調整します。

ブライトネス

画像の明るさを調整します。

ガンマ

画像の暗い部分の見え方を強調します。

色あい

緑色と赤色のバランスを調整します。

プログレッシブ映像と、S映像出力/映像出力に効果があります。

色の濃さ

色の濃さを調整します。

色ののり具合に効果があります。

クロマディレイ

映像の輝度(Y)信号と色(C)信号のズレを調整します。

プログレッシブ映像にのみ、効果があります。

黒セットアップ

黒色の浮きを補正し、立体感のある引き締まった映像を再現します。通常は「0 IRE」にしてください。

黒がつぶれて見にくい場合などは「7.5 IRE」にしてください。

NR(ノイズリダクション)

画面のノイズを軽減します。

プログレッシブ映像にのみ効果があります。

- シャープネスとガンマは、インターレース映像にのみ効果があります。ただし、HDMI端子から出力される映像には反映されません。

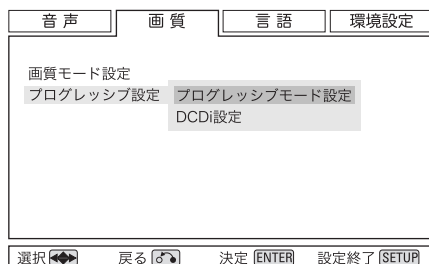
5 調整が終わったら、RETURNボタンを数回押して元の画面に戻る。

設定画面を終了する場合は、SETUPボタンを押してください。

- DVDの再生中または停止中にリモコンのPICTUREボタンをくり返し押すと、メモリー1、メモリー2、メモリー3、リファレンスを簡単に切り換えることができます。

プログレッシブモード

[画質→プログレッシブ設定→プログレッシブモード]



HDMI端子、コンポーネント映像出力端子、またはD1/D2端子をプログレッシブ対応機器と接続している場合に設定してください。

1. 方向ボタンで「プログレッシブモード」を選んでENTERボタンを押す。
2. 方向ボタン(左右)で「オート」または「ビデオ」を選んでENTERボタンを押す。
設定が変更されて、前の画面に戻ります。全ての設定が終わったら、SETUPボタンを押して終了してください。

プログレッシブモードについて

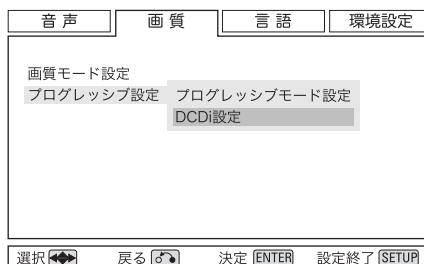
DVDの映像信号には次の2種類があります。

- ・「ビデオ素材」と言われる映像情報を毎秒30コマで記録した信号
- ・「フィルム素材」と言われる映像情報を毎秒24コマで記録した信号

フィルム素材である映画フィルムは毎秒24コマ(24Hz)で記録されています。「ビデオ」を選ぶと、毎秒24コマで記録された映像情報を毎秒60コマのプログレッシブ画面に変換する際に、ディスクに記録された処理情報をもとにオリジナルの映画フィルムに忠実な走査線を構成することにより、原画に近い鮮明な映像をお楽しみいただけます。プログレッシブモードは通常は「オート」をお選びください。ディスクによっては、輪郭がギザギザになったりブレて見えることがあります。その場合は「ビデオ」に変えてみてください。

DCDi

[画質→プログレッシブ設定→DCDi]



プログレッシブ画像に変換する際に、画像の輪郭を補正し自然なイメージを投影するDCDi回路をオン/オフします。特にビデオ素材に有効です。

HDMI端子、コンポーネント映像出力端子、またはD1/D2端子をプログレッシブ対応機器と接続している場合に設定してください。

1. 方向ボタンで「DCDi設定」を選んでENTERボタンを押す。
2. 方向ボタン(左右)で「AUTO」、「ON」、または「OFF」を選んでENTERボタンを押す。

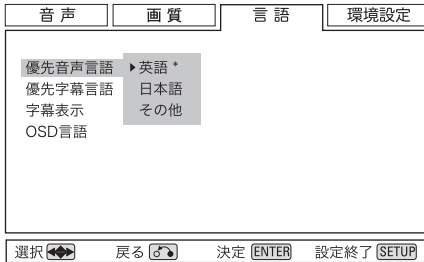
設定が変更されて、前の画面に戻ります。全ての設定が終わったら、SETUPボタンを押して終了してください。

- ビデオ素材のプログレッシブ映像で斜めの線にギザギザが目立つ場合は「ON」にしてください。
フィルム素材でも、ディスクの映像によっては滑らかさと深みを増す効果が得られることがあります。
- 「AUTO」を選択すると、ディスクに記録されている素材情報に従って、ビデオ素材のときは「ON」、フィルム素材のときは「OFF」に自動的に切り換わります。ただし、ディスクによっては正常に切り換わらないことがあります。

設定(言語) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

優先音声言語

[言語→優先音声言語]



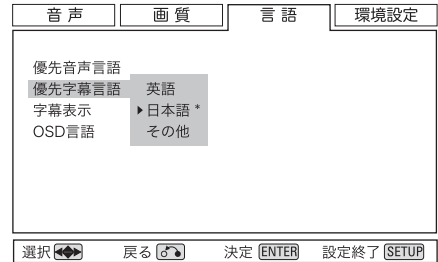
ディスクに入っている音声のうち、通常はどの言語の音声にするか選んでおくことができます。再生中にAUDIOボタンで音声言語を変えた場合でも、ディスクを交換したときは、この設定で選んだ言語になります。

方向ボタンで言語を選んでENTERボタンを押してください。

- 再生中は設定を変更できません。
- 「その他」の言語を選ぶ場合は、49ページをお読みください。
- 選択した言語がディスクに記録されていないときは、そのディスクのオリジナルの言語が選択されます。

優先字幕言語

[言語→優先字幕言語]



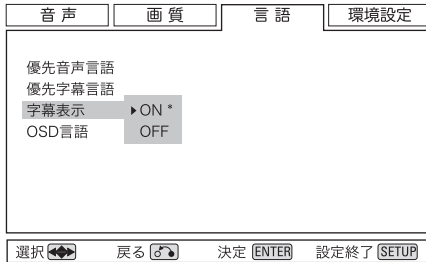
ディスクに入っている字幕のうち、通常表示する字幕の言語を選んでおくことができます。再生中にSUBTITLEボタンを押して字幕言語を変えた場合でも、ディスクを交換したときは、この設定で選んだ言語になります。

方向ボタンで言語を選んでENTERボタンを押してください。

- 再生中は設定を変更できません。
- 「その他」の言語を選ぶ場合は、49ページをお読みください。
- 選択した言語がディスクに記録されていないときは、そのディスクのオリジナルの言語が選択されます。

字幕表示

[言語→字幕表示]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

- 再生中は設定を変更できません。

ON :

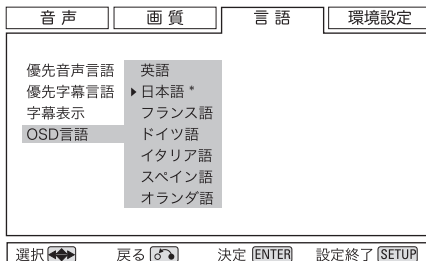
字幕を表示します。

OFF :

字幕を表示しません。ただし、ディスクによっては字幕をオフにできないことがあります。

OSD言語

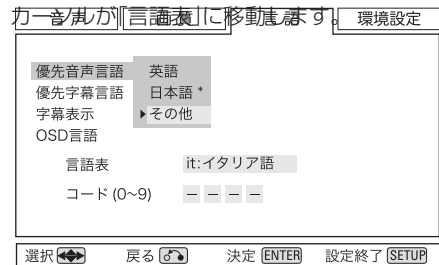
[言語→OSD表示]



設定画面などで使用する言語を切り換えることができます。方向ボタンで言語を選んでENTERボタンを押してください。

日本語/英語以外の言語を選ぶには

1. 「その他」を選んでENTERボタンを押す。



2. もう一度ENTERボタンを押す。

言語表が表示されます。

3. 言語を選ぶ。

- ・言語表の中に選びたい言語が見つかったら：方向ボタンで言語を選んでENTERボタンを押してください。言語が選択されます。

- ・言語表の中に選びたい言語がない場合は：

- 3-1. RETURNボタンを押して前の画面に戻る。

- 3-2. 方向ボタン(上下)を押してカーソルをコード入力欄に移動する。

- 3-3. 言語を選ぶ。

50ページの言語コード表を使って、選択したい言語の入力コードを調べ、数字キーで4桁の入力コードを入力してください。

4. SETUPボタンを押して終了する。

言語コード表

| 言語名(言語コード) | 入力コード |
|-------------------|-------|
| Japanese (ja) | 1001 |
| English (en) | 0514 |
| French (fr) | 0618 |
| German (de) | 0405 |
| Italian (it) | 0920 |
| Spanish (es) | 0519 |
| Chinese (zh) | 2608 |
| Dutch (nl) | 1412 |
| Portuguese (pt) | 1620 |
| Swedish (sv) | 1922 |
| Russian (ru) | 1821 |
| Korean (ko) | 1115 |
| Greek (el) | 0512 |
| Afar (aa) | 0101 |
| Abkhazian (ab) | 0102 |
| Afrikaans (af) | 0106 |
| Amharic (am) | 0113 |
| Arabic (ar) | 0118 |
| Assamese (as) | 0119 |
| Aymara (ay) | 0125 |
| Azerbaijani (az) | 0126 |
| Bashkir (ba) | 0201 |
| Byelorussian (be) | 0205 |
| Bulgarian (bg) | 0207 |
| Bihari (bh) | 0208 |
| Bislama (bi) | 0209 |
| Bengali (bn) | 0214 |
| Tibetan (bo) | 0215 |
| Breton (br) | 0218 |
| Catalan (ca) | 0301 |
| Corsican (co) | 0315 |
| Czech (cs) | 0319 |
| Welsh (cy) | 0325 |
| Danish (da) | 0401 |
| Bhutani (dz) | 0426 |
| Esperanto (eo) | 0515 |
| Estonian (et) | 0520 |
| Basque (eu) | 0521 |
| Persian (fa) | 0601 |
| Finnish (fi) | 0609 |
| Fiji (fj) | 0610 |
| Faroese (fo) | 0615 |
| Frisian (fy) | 0625 |
| Irish (ga) | 0701 |
| Scots-Gaelic (gd) | 0704 |
| Galician (gl) | 0712 |

| 言語名(言語コード) | 入力コード |
|------------------|-------|
| Guarani (gn) | 0714 |
| Gujarati (gu) | 0721 |
| Hausa (ha) | 0801 |
| Hindi (hi) | 0809 |
| Croatian (hr) | 0818 |
| Hungarian (hu) | 0821 |
| Armenian (hy) | 0825 |
| Interlingua (ia) | 0901 |
| Interlingue (ie) | 0905 |
| Inupiak (ik) | 0911 |
| Indonesian (in) | 0914 |
| Icelandic (is) | 0919 |
| Hebrew (iw) | 0923 |
| Yiddish (ji) | 1009 |
| Javanese (jw) | 1023 |
| Georgian (ka) | 1101 |
| Kazakh (kk) | 1111 |
| Greenlandic (kl) | 1112 |
| Cambodian (km) | 1113 |
| Kannada (kn) | 1114 |
| Kashmiri (ks) | 1119 |
| Kurdish (ku) | 1121 |
| Kirghiz (ky) | 1125 |
| Latin (la) | 1201 |
| Lingala (ln) | 1214 |
| Laothian (lo) | 1215 |
| Lithuanian (lt) | 1220 |
| Latvian (lv) | 1222 |
| Malagasy (mg) | 1307 |
| Maori (mi) | 1309 |
| Macedonian (mk) | 1311 |
| Malayalam (ml) | 1312 |
| Mongolian (mn) | 1314 |
| Moldavian (mo) | 1315 |
| Marathi (mr) | 1318 |
| Malay (ms) | 1319 |
| Maltese (mt) | 1320 |
| Burmese (my) | 1325 |
| Nauru (na) | 1401 |
| Nepali (ne) | 1405 |
| Norwegian (no) | 1415 |
| Occitan (oc) | 1503 |
| Oromo (om) | 1513 |
| Oriya (or) | 1518 |
| Panjabi (pa) | 1601 |
| Polish (pl) | 1612 |

| 言語名(言語コード) | 入力コード |
|---------------------|-------|
| Pashto, Pushto (ps) | 1619 |
| Quechua (qu) | 1721 |
| Rhaeto-Romance (rm) | 1813 |
| Kirundi (rn) | 1814 |
| Romanian (ro) | 1815 |
| Kinyarwanda (rw) | 1823 |
| Sanskrit (sa) | 1901 |
| Sindhi (sd) | 1904 |
| Sangho (sg) | 1907 |
| Serbo-Croatian (sh) | 1908 |
| Sinhalese (si) | 1909 |
| Slovak (sk) | 1911 |
| Slovenian (sl) | 1912 |
| Samoa (sm) | 1913 |
| Shona (sn) | 1914 |
| Somali (so) | 1915 |
| Albanian (sq) | 1917 |
| Serbian (sr) | 1918 |
| Siswati (ss) | 1919 |
| Sesotho (st) | 1920 |
| Sundanese (su) | 1921 |
| Swahili (sw) | 1923 |
| Tamil (ta) | 2001 |
| Telugu (te) | 2005 |
| Tajik (tg) | 2007 |
| Thai (th) | 2008 |
| Tigrinya (ti) | 2009 |
| Turkmen (tk) | 2011 |
| Tagalog (tl) | 2012 |
| Setswana (tn) | 2014 |
| Tonga (to) | 2015 |
| Turkish (tr) | 2018 |
| Tsonga (ts) | 2019 |
| Tatar (tt) | 2020 |
| Twi (tw) | 2023 |
| Ukrainian (uk) | 2111 |
| Urdu (ur) | 2118 |
| Uzbek (uz) | 2126 |
| Vietnamese (vi) | 2209 |
| Volapük (vo) | 2215 |
| Wolof (wo) | 2315 |
| Xhosa (xh) | 2408 |
| Yoruba (yo) | 2515 |
| Zulu (zu) | 2621 |

設定(スピーカー設定)

i.LINK端子またはHDMI端子をAVアンプと接続し、本機でスピーカー設定してお聴きになる場合は、51～54ページのスピーカー設定を行ってください。

スピーカー設定は、デジタル音声出力端子(OPTICALまたはCOAXIAL)から出力される音には反映されません。

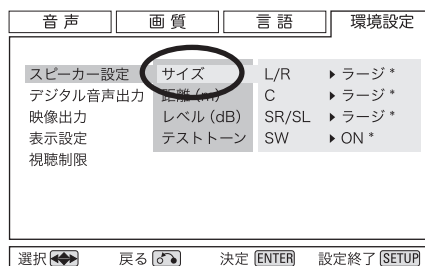
「i.LINK端子またはHDMI端子を使わない場合」、または「AVアンプ側でスピーカー設定する場合は、本機で設定する必要はありませんので、本機のスピーカー設定は工場出荷時の状態にしておいてください。

- スピーカー設定は、「アナログ出力」の設定が「マルチch」のときに、i.LINK端子とHDMI端子から出力される信号に反映されます。
- 以下の場合、「スピーカー設定」で設定した項目はすべて無視されます。
 - ・ 「アナログ出力」の設定が「2ch」のとき
 - ・ i.LINK端子を「60958」に設定してDVDビデオを再生した場合

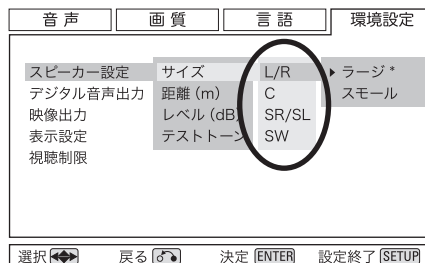
スピーカーのサイズ設定

[環境設定→スピーカー設定→サイズ]

1 方向ボタンで「スピーカー設定」の中の「サイズ」を選ぶ。



2 方向ボタンでサイズを変更したいスピーカーを選んで、方向ボタン(右)を押す。



L/R : フロントスピーカー

C : センタースピーカー

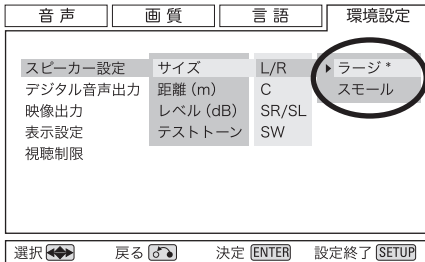
SR/SL : サラウンドスピーカー

SW : サブウーハー

(次ページに続く→)

設定(スピーカー設定)

- 3** 方向ボタン(上下)で各スピーカーのサイズを選んで、ENTERボタンを押す。



ラージ：

低音まで再生できる大きいスピーカーを使う場合はこちらを選択してください。

スモール：

小さいスピーカーを使う場合はこちらを選択してください。「スモール」に設定したチャンネルの低音はサブウーハーから出力されます。

OFF：

そのチャンネルのスピーカーを使わない場合、「OFF」にしてください。「OFF」に設定したチャンネルの音声は他のチャンネルに振り分けられます。

ON (サブウーハーのみ)：

サブウーハーを使うときは「ON」にしてください。

- L/Rは「OFF」にできません。
- センタースピーカー(C)またはサラウンドスピーカー(SR/SL)が「OFF」の状態マルチチャンネルのディスクを再生すると、強制的にダウンミックスされます。(ダウンミックスが禁止されている場合を除く)
- ダウンミックスする場合は、ダウンミックスしないときと比べると音量が変化します。
- ダウンミックスによりサブウーハーとその他のスピーカーの音量が違って聞こえる場合は、「スピーカー設定」の「レベル」で調節するか(54ページ)、サブウーハー本体の音量で調節してください。

- 4** 設定が終わったら、RETURNボタンを数回押して元の画面に戻る。

設定画面を終了する場合は、SETUPボタンを押してください。

スピーカーの距離設定

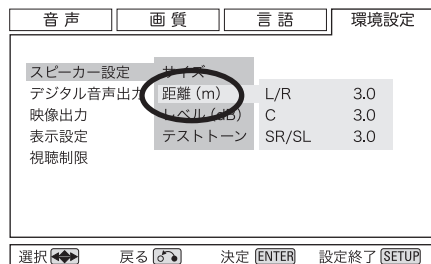
[環境設定→スピーカー設定→距離]

同一サイズのスピーカーを視聴位置から等距離に配置するのが理想です。等距離に置けない場合、本機は自動的にディレイタイムを設定することによって理想に近づけます。

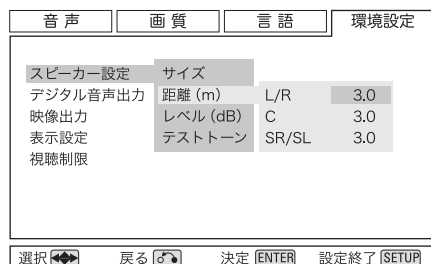
スピーカーの距離設定は、i.LINK端子の場合は、i.LINK(40ページ)を「PCM」に設定し、DVDビデオまたはDVDオーディオを再生した場合のみ、有効です。スーパーオーディオCDの再生時は無効になります。

HDMI端子の場合は、「デジタル音声出力」(55ページ)のDolby Digital、DTS、MPEG Audioを全部「PCM」に設定し、DVDビデオまたはDVDオーディオを再生した場合のみ、有効です。スーパーオーディオCDの再生時は無効になります。

1 方向ボタンで「スピーカー設定」の中の「距離」を選ぶ。



2 方向ボタンでスピーカーを選んでから、方向ボタン(右)を押してカーソルを数値の上に移動する。



3 方向ボタン(上下)で数値を変更する。

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。距離を設定すると、ディレイタイム(遅延時間)が自動的に設定されます。

工場出荷時は3mに設定されています。

L/R (フロントスピーカー) :

0.3m~9.0mの範囲で0.1m刻みで設定できます。

C (センタースピーカー) :

フロントスピーカーの設定より1.7m短い距離から、フロントスピーカーと同じ距離まで、0.1m刻みで設定できます。ただし、最小値は0mです。

SR/SL (サラウンドスピーカー) :

フロントスピーカーの設定より9m短い距離から、フロントスピーカーと同じ距離まで、0.1m刻みで設定できます。ただし、最小値は0mです。

- L/Rの設定値を変更すると、CとSR/SLの設定値も同時に変わります。L/Rを設定してからCとSR/SLを設定してください。
- L/Rの距離が設定範囲外の場合は、CとL/R、SR/SLとL/Rの差が合うように数値を設定してください。

4 設定が終わったら、RETURNボタンを数回押して元の画面に戻る。

設定画面を終了する場合は、SETUPボタンを押してください。

設定(スピーカー設定)

スピーカーのレベルの調節

[環境設定→スピーカー設定→レベル]

- 1 方向ボタンで「スピーカー設定」の中の「レベル」を選ぶ。



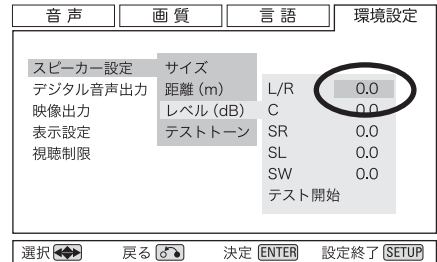
- 2 方向ボタンで「テスト開始」を選び、ENTERを押す。



テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。

- テストトーンの音量が小さくて聞こえない場合、または大きすぎる場合は、アンプ側で音量を調節してください。
- サブウーハーから出力されるテストトーンは、周波数帯域が低音のみなので、他のスピーカーから出力される音よりも小さく聞こえます。サブウーハーのレベルは、テストトーンではなく、低音(サブウーハーチャンネル)の入った聴き慣れたソースを再生して確認してください。
- i.LINKの設定が「60958」のときはテストトーンを出力しません。「PCM」を選んでください。(40ページ)
- スーパーオーディオCDがセットされているとき(またはセットされていたとき)は、テストトーンを出力しません。ディスクを抜いて、一度電源を入れ直してから操作してください。

- 3 各スピーカーからの音の大きさが同じに聞こえるように調節する。



方向ボタンを使って、変更したいスピーカーの数値の上にカーソルを移動して、方向ボタン(上下)で音量を調節してください。

−12dB~0dBの範囲で、0.5dB刻みに調節できます。

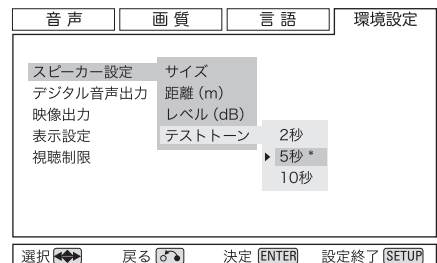
- レベルを+側に設定した場合、ソースによっては音が歪むことがあります。

- 4 調節が終わったら、RETURNボタンを数回押しして元の画面に戻る。

設定画面を終了する場合は、SETUPボタンを押ししてください。

テストトーンの長さの変更

[環境設定→スピーカー設定→テストトーン]

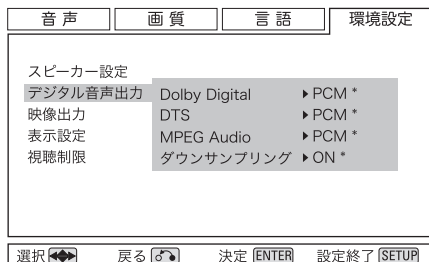


レベル調節のときに出力するテストトーンの長さを変えることができます。方向ボタンでお好みの長さを選んでENTERボタンを押ししてください。

設定(環境設定) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

デジタル音声出力

[環境設定→デジタル音声出力]



デジタル出力端子とHDMI端子から出力するデジタル音声の出力方法を選びます。i.LINKを「60958」に設定した場合は、i.LINK端子からもここで選んだ方法で出力します。(40ページ)

方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

Dolby Digital

ストリーム：

ドルビーデジタル信号をそのまま出力します。

ドルビーデジタル対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM：

ドルビーデジタル信号をPCMに変換して出力します。本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。

(PCM：CDなどで使用される一般的なデジタル音声)

DTS

ストリーム：

DTS信号をそのまま出力します。

DTS対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM：

DTS信号をPCMに変換して出力します。

本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。

- DTSに対応していない機器と接続しているときは「ストリーム」に設定しないでください。ノイズが発生することがあります。

MPEG Audio

ストリーム：

MPEG信号をそのまま出力します。MPEG対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM：

MPEG信号をPCMに変換して出力します。5.1チャンネルの信号は自動的にダウンミックスされます。

本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。

ダウンサンプリング

ON：

デジタル音声を48kHz/44.1kHzにダウンサンプルして出力します。96kHz/88.2kHzに対応していないアンプと接続したときに選んでください。

OFF：

96kHz/88.2kHz対応のアンプまたはDACと接続したときに選んでください。

- デジタル出力端子(COAXIAL/OPTICAL)の場合は、ダウンサンプリングを「OFF」に設定しても、ディスクによっては強制的に48kHz/44.1kHzに変換されたり、デジタル出力されないことがあります。また、DVDオーディオの192/176.4kHzの信号は、ダウンサンプリングを「OFF」に設定しても、強制的に96/88.2kHzにダウンサンプルされます。

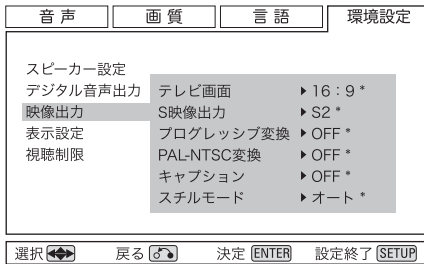
注意

- 接続した機器がドルビーデジタル/DTS/MPEGに対応していない場合、「PCM」を選んでください。
- 本機でデコードしたマルチチャンネルのPCMをHDMI端子から出力したいときは、Dolby Digital、DTS、MPEG Audioを全部「PCM」に設定し、「アナログ出力」(43ページ)を「マルチch」に設定してください。
- ドルビーデジタル/DTS/MPEGに対応していない機器のHDMI端子と接続した場合、「ストリーム」に設定すると、本機は自動的にPCMに変換して出力します。

設定(環境設定) [矢印(→)の順番に選択していくと、それぞれの設定画面になります]

映像出力

[環境設定→映像出力]



映像の出力方法を選びます。
方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

テレビ画面

接続したテレビに合わせて映像の縦横比(アスペクト比)を選んでください。

- ディスクの再生中は設定を変更できません。STOPボタンを押して再生を停止してください。
- 従来のテレビは横4:縦3、ワイドテレビやハイビジョンテレビは横16:縦9の比率になっています。この横と縦の比率をアスペクト比と呼んでいます。
- ディスク側でアスペクト切替できる場合は、テレビに合わせて切り換えてください。
- アスペクトの切替ができるかどうかはディスクによって異なります。ディスクのジャケット等で確認してください。アスペクトの切替ができないディスクの場合にはテレビ側で画面を調整してください。
- テレビ側の設定によっては映像が縦長または横長になることがあります。接続するテレビの取扱説明書もお読みください。

16:9 (出荷時の設定)

16:9のワイドテレビを接続した場合。



4:3の映像



16:9の映像

4:3LB(レターボックス)

従来の4:3のテレビを接続し、16:9の映像はレターボックスで見る場合。画面の上下が黒い帯になりますが、正しく見るすることができます。



4:3の映像



16:9の映像

4:3PS(パンスキャン)

従来の4:3のテレビを接続し、16:9の映像をパンスキャンで見る場合。画面の左右が切れます。



4:3の映像



16:9の映像

S映像出力

S映像出力端子にテレビを接続している場合は、S映像出力端子から出力する映像信号を切り換えることができます。

S1:

映像のアスペクト比(4:3、16:9)の識別信号の入ったS1映像信号を出力します。

S2:

S1の識別信号に加えて、アスペクト比4:3レターボックス信号の識別信号の入ったS2映像信号を出力します。S2対応のワイドテレビでは、適切な映像モードに自動的に切り換わります。

- 映像が横方向に伸びてしまうときは、「S1」に設定してください。

コンポーネント

コンポーネント映像出力端子またはD1/D2端子にテレビを接続している場合は、テレビに合わせて出力方法を選んでください。

プログレッシブ：

プログレッシブ入力対応のテレビまたはプロジェクターと接続した場合。きめ細かな映像が得られる高画質モードです。

インターレース：

プログレッシブ入力に対応していないテレビまたはプロジェクターと接続した場合。

- プログレッシブ入力に対応していないテレビと接続しているときは、「プログレッシブ」を選ばないでください。設定画面を表示できなくなります。万一、「プログレッシブ」を選択してしまったときは、映像出力端子またはS1/S2映像端子をテレビと接続して設定画面を表示し、設定を「インターレース」に戻してください。
- HDMI端子しか使わない場合は、この設定は関係ありません。HDMI(37ページ)をお読みください。
- HDMI(37ページ)をオンにすると、コンポーネント映像出力端子とD1/D2端子からは、プログレッシブに設定していてもインターレースの信号が出力されます。

一部のプログレッシブ対応テレビ(525P/625P)は、本機のプログレッシブ出力との互換が不完全なため、プログレッシブ再生時に映像に悪影響を与えることがあります。その場合は、本機の設定を「インターレース」にしてください。

PAL-NTSC変換

PALまたはNTSCのディスクを、それぞれNTSC、PALに変換して再生することができます。

OFF(出荷時の設定)：

PALのディスクを再生したときはPAL信号を、NTSCのディスクを再生したときはNTSC信号を出力します。

PAL>NTSC：

PAL信号をNTSCに変換して出力します。変換した画像は、縦に伸びて下部がカットされます。

NTSC>PAL：

NTSC信号をPALに変換して出力します。変換した画像は縦に縮みます。

接続したテレビがPALに対応していない場合は、「NTSC>PAL」を選ばないでください。設定画面を表示できなくなります。設定画面を表示できないときは、工場出荷時の状態に戻してください。(42ページ)

- 本来の画質で見るとは、この項目をOFFに設定して、それぞれのフォーマットに対応したテレビをお使いください。
- 1秒当りのコマ数の異なる映像信号に変換しますので、本来の映像の動きとは違って見える場合があります。

キャプション

ON：

クローズドキャプションの収録されたDVDの再生時に、キャプションを表示します。

OFF：

キャプションを表示しません。

- キャプションを表示するには、クローズドキャプションに対応したテレビが必要です。

スチルモード

オート：

フィールドとフレームを自動的に切り換えます。

フィールド：

DVDを一時停止したときの画像のブレを無くします。ただし、ディスクによっては「フィールド」を選択しても画像がブレることがあります。

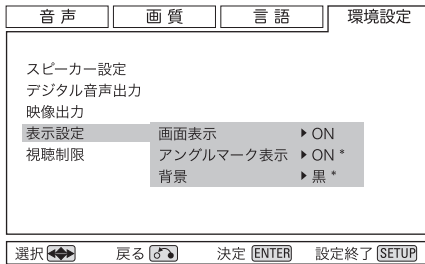
フレーム：

フィルム素材のDVDに適したモードです。ビデオ素材のDVDを一時停止すると画像がブレることがあります。

設定(環境設定)

表示設定

[環境設定→表示設定]



方向ボタンで項目を選んでENTERボタンを押してください。

画面表示

画面表示を「OFF」にすると、ボタンを操作をしたときの表示などが画面に表示されなくなります。また、DISPLAYボタンを押しても、画面には何も表示されません。

方向ボタンで「ON(表示)」または「OFF(非表示)」を選んでENTERボタンを押してください。

アングルマーク表示

ON : 表示
OFF : 表示しない

「ON」に設定すると、マルチアングルで記録された画面を再生するときに 表示しますので、マルチアングルの画面を再生しているかどうかははっきりします。

方向ボタンで「ON」または「OFF」を選んでENTERボタンを押してください。

背景

ディスクが停止しているときの背景の色を選ぶことができます。方向ボタンで色を選んでENTERボタンを押してください。

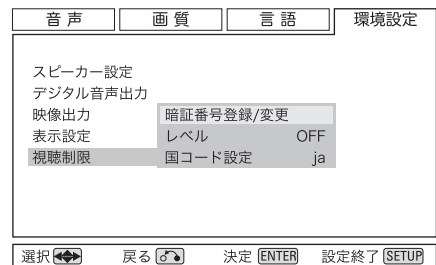
視聴制限(パレンタルロック)

暴力シーンなど、子供に見せたくない映像に視聴制限(パレンタルロック)をかける機能です。本機は、視聴制限コードが記録されているディスクに対して、視聴を制限することができます。詳しくはディスクの説明書をお読みください。

初めて視聴制限機能を使う場合は、まず暗証番号を登録してください。

暗証番号を登録するには

[環境→視聴制限→暗証番号登録/変更]



- 暗証番号を入力しないとレベルの変更はできません。暗証番号は忘れないように控えておいてください。暗証番号を忘れてしまった場合は、出荷時の設定に戻してから再度暗証番号を登録してください。

1. 方向ボタンで「暗証番号登録/変更」を選んで、ENTERボタンを押す。
暗証番号登録画面が表示されます。

2. 数字キーで4桁の暗証番号を入力する。
暗証番号が登録されます。

- 暗証番号を登録すると、「レベル設定」と「国コード設定」を選択できるようになります。

暗証番号を変更するには

[環境→視聴制限→暗証番号登録/変更]

1. 方向ボタンで「暗証番号登録/変更」を選んで、ENTERボタンを押す。
暗証番号登録画面が表示されます。

2. 数字キーで現在の暗証番号を入力する。

3. 数字キーで新しい暗証番号を入力する。
新しい暗証番号に変更されます。

視聴制限のレベルを変更するには

[環境→視聴制限→レベル設定]

1. 方向ボタンで「レベル設定」を選んで、ENTERボタンを押す。

暗証番号入力画面が表示されます。

2. 数字キーで4桁の暗証番号を入力してENTERボタンを押す。

レベル変更の画面が表示されます。

出荷時は「オフ(無制限)」に設定されています。

3. 方向ボタン(左右)でレベルを選ぶ。

数字が小さいほど制限が厳しくなります。

4. ENTERボタンを押す。

レベルの変更が終わり、設定画面に戻ります。

- レベルを選んでから30秒以内にENTERボタンを押さなかった場合は、レベルは変更されません。
- 視聴制限されたディスクを再生すると、暗証番号の入力を求める画面が表示されることがあります。その場合は、数字キーで4桁の暗証番号を入力してENTERボタンを押してください。

国コードを変更するには

[環境→視聴制限→国コード設定]

視聴制限の基準は国によって異なります。出荷時は「ja(日本)」に設定されていますが、必要に応じて変更してください。

1. 方向ボタンで「国コード設定」を選んで、ENTERボタンを押す。

暗証番号入力画面になります。

2. 数字キーで4桁の暗証番号を入力してENTERボタンを押す。

3. 数字キーで4桁の入力コードを押す。

国コード表を使って、選択したい国の入力コードを調べ、数字キーで4桁の入力コードを入力してください。

または、方向ボタン(上下)でコード表の選択肢をスクロールさせて、選択したい国コードを表示させてください。

4. ENTERボタンを押す。

国コードの変更が終わり、設定画面に戻ります。

国コード表

| 国名 | 入力コード | 国コード |
|----------|-------|------|
| アメリカ | 2119 | us |
| アルゼンチン | 0118 | ar |
| イギリス | 0702 | gb |
| イタリア | 0920 | it |
| インド | 0914 | in |
| インドネシア | 0904 | id |
| オーストラリア | 0121 | au |
| オーストリア | 0120 | at |
| オランダ | 1412 | nl |
| カナダ | 0301 | ca |
| 韓国 | 1118 | kr |
| シンガポール | 1907 | sg |
| スイス | 0308 | ch |
| スウェーデン | 1905 | se |
| スペイン | 0519 | es |
| タイ | 2008 | th |
| 台湾 | 2023 | tw |
| 中国 | 0314 | cn |
| チリ | 0312 | cl |
| デンマーク | 0411 | dk |
| ドイツ | 0405 | de |
| 日本 | 1016 | jp |
| ニュージーランド | 1426 | nz |
| ノルウェー | 1415 | no |
| パキスタン | 1611 | pk |
| フィリピン | 1608 | ph |
| フィンランド | 0609 | fi |
| ブラジル | 0218 | br |
| フランス | 0618 | fr |
| ベルギー | 0205 | be |
| ポルトガル | 1620 | pt |
| 香港 | 0811 | hk |
| マレーシア | 1325 | my |
| メキシコ | 1324 | mx |
| ロシア | 1821 | ru |

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

一 般

電源が入らない。

- 電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- 本体のPOWERボタンを押して、電源をオンにしてください。(22ページ)

リモコンで操作できない。

- 本体のPOWERボタンを押して、電源をオンにしてください。(22ページ)
- 電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。(11ページ)
- 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から7メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。(11ページ)

テレビなどが誤動作する。

- ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。

再生できない。

- ディスクを正しくセットしてください。ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
- ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。(10ページ)
- DVDビデオの場合、本機ではリージョンNo.2またはそれを含むディスクしか再生できません。(8ページ)
- 本機の内部が結露している場合は、電源を入れて1、2時間放置してください。(62ページ)

禁止マークが画面に出る。ボタンを押しても反応しない。

- 禁止されている操作です。(9ページ)
- 続けてボタンを押すと、機械側が対応できずに禁止マークを表示することがあります。ボタンを押すときは、機械が反応するまで少しお待ちください。
- 映画などの冒頭部分(製作会社のロゴや注意事項など)の再生中は、スキップなどの操作を受け付けません。しばらくお待ちください。

設定できない項目がある。

- 再生中は変更できない項目があります。STOPボタンを押して、再生を停止してください。リジューム機能が働いているときは、もう一度STOPボタンを押して完全に停止させてください。(41ページ)

早送り/早戻しなどが途中で止まってしまう。

- DVDでは、メニュー画面に移ると早送り/早戻しなどが止まってしまう。(26ページ)

スピーカーから音が出ない。音が歪む。

- テレビ、アンプ、スピーカーとの接続を確認してください。(12~17ページ)
- アンプなどの音量を調節してください。
- ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
- 使用する端子によっては、設定が必要です。設定を確認してください。(12~17ページ)
- 一時停止、スロー再生中などは音が出ません。再生ボタンを押して通常の再生に戻してください。

音 声

スピーカーから5.1チャンネルの音声が出力されない。

- 「音声」の「アナログ出力」の設定を「マルチch」にしてください。(43ページ)
- お使いのスピーカーに合わせて「スピーカー設定」を行ってください。(51～54ページ)
- デジタル音声をAVサラウンドアンプでデコードしている場合は、「デジタル音声出力」の設定を「ストリーム」にしてください。(55ページ)。
- スーパーオーディオCDやDVDオーディオでは、2チャンネルとサラウンドの両方の音声を収録しているものがあります。グループまたは再生エリアを切り換えてサラウンドの音声を選んでください。(27ページ)

音量が小さい。

各スピーカーからの音量バランスがおかしい。

- 「スピーカー設定」の「レベル(dB)」で各スピーカーの出力レベルを調節してください。(54ページ)
- ダウンミックスが働いているときは、ダウンミックスされない場合と比べて音量が変化します。その場合は、アンプ側で音量を調節してください。
- 「スピーカー設定」の「サイズ」で、サブウーハー以外で「OFF」や「スモール」を選んだものがある場合、サブウーハーの音量が変化します。その場合は、サブウーハー本体の音量を調節してください。

デジタル音声を出力できない。

- 「デジタル出力」の設定を「ON」にしてください。(43ページ)
- スーパーオーディオCDのデジタル音声は、デジタル音声出力端子とHDMI端子からは出力できません。i.LINK(AUDIO)端子をお使いください。
- DVDオーディオの中にはデジタル音声を出力できないディスクがあります。

外部接続した機器でデジタル録音できない。

- 「音声」の「アナログ出力」の設定を「2ch」にし、「デジタル音声出力」の設定を「PCM」にしてください。(43、55ページ)
- コピー禁止信号の入っているディスクの音声をデジタル信号のまま録音することはできません。(7ページ)

DTS音が出ない。

- DTSに対応していないアンプにデジタル接続してお聴きになる場合は、「デジタル音声出力」の「DTS」の設定をPCMにしてください。(55ページ)
または、AUDIOボタンを押して他の音声を選んでください。(29ページ)
- DTS CDを再生する場合は、「CD再生」の設定を「ノーマル」にしてください。(44ページ)
- アンプ側の設定を確認してください。

96/88.2kHz音声をデジタル出力できない。

- 「デジタル音声出力」の「ダウンサンプリング」の設定を「OFF」にしてください。(55ページ)
- 著作権保護がされているディスクでは96/88.2kHz音声のデジタル出力が禁止されています。

DVD、CD、スーパーオーディオCDで音量差を感じる。

- DVD、CD、スーパーオーディオCDで音量差を感じることがありますが、これはディスクの記録方式の違いによるものです。

困ったときは (続き)

映 像

画面が映らない。

画像が乱れる。

- テレビとの接続を確認してください。(12、13ページ)
- テレビの操作および設定を確認してください。
- リモコンのVIDEO OFFボタンで映像出力を「VIDEO ON」にしてください。
- HDMI端子に接続している場合は、設定を正しく行ってください。(13ページ)
- コンポーネント映像出力端子またはD1/D2映像出力端子に接続している場合は、「コンポーネント」の設定を正しく行ってください。(57ページ)
- 接続しているテレビに合わせて「PAL-NTSC変換」の設定を行ってください。(57ページ)
- 「PAL-NTSC変換」を「NTSC>PAL」にすると、画像が乱れることがあります。工場出荷時の状態に戻してみてください。(42ページ)

画面が縦または横に伸びる。

- お使いのテレビに合わせてアスペクト比を選んでもください。(56ページ)
- 本機とテレビをS1/S2映像端子で接続している場合は、テレビ側の信号処理により映像が横方向に伸びてしまうことがあります。「S映像出力」の設定をS1にしてみてください。(56ページ)

DVD映像をVTRに録画したり、VTRを通して再生すると再生映像が乱れる。

- 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクをVTRを通して再生したり、VTRに録画して再生するとコピーガードシステムにより正常に再生されません。
本機の映像出力は、VTRを通さずにモニターと直接接続してください。

DISPLAYボタンを押しても反応しない。

早送りやスロー再生中に、速度(▶▶ ×8など)が表示されない。

- 「表示設定」の「画面表示」を「ON」に設定してください。(58ページ)

アングルマークが画面に表示されない。

- 「表示設定」の「アングルマーク表示」を「ON」に設定してください。(58ページ)
- マルチアングル映像の収録されたDVDビデオを再生してください。

映像と音声が合わない。

- リップシンク機能で調節してください。(31ページ)

ワードシンク

MODEボタンが点滅し、「No Word!」が表示される。

- ワードロックが入力されていません。外部マスタークロックジェネレーターとの接続、マスタークロックジェネレーターの電源や出力状態を確認してください。
- ワードロックが入力されていない時は、ワードシンクはオフにしてください。(39ページ)

MODEボタンが点滅し、「WRD UNLCK!」が表示される。

- 同期できない信号が入力されている可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

結露現象について

本機を寒い戸外から暖かい室内に持ち込んだり、設置した部屋の暖房を入れた直後などには、動作部やレンズに水滴がついて正常に動作しないことがあります。この場合は、電源を入れて1~2時間そのまま放置してください。正常に再生できるようになります。

i.LINK (IEEE1394)

i.LINKとは、国際標準規格であるIEEE1394の別称です。本機はi.LINK(AUDIO)に対応しています。

本機のi.LINK(AUDIO)端子にi.LINK(AUDIO)対応機器をi.LINKケーブルで接続すると、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかったスーパーオーディオCDのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。複数のi.LINK対応機器を接続する場合、他の機器を経由して接続してもデータのやりとりが可能ですので、接続順序を意識する必要がありません。

著作権保護システムDTCP

i.LINKを使ってスーパーオーディオCDやDVDオーディオの音声を再生するためには、再生機器とD/Aコンバーターの双方が著作権保護システム DTCP (Digital Transmission Content Protection)に対応していなければなりません。

本機はDTCPに対応しています。

データ転送速度

i.LINK対応機器のデータ転送速度には、100Mbps(S100)、200Mbps(S200)、400Mbps(S400)の3種類があります。本機の最大データ転送速度は400Mbpsです。

接続には、市販のS400対応の6ピンi.LINKケーブルをお使いください。

複数の機器を接続するとき、データ転送速度の遅い機器を間に挟むと、データ転送速度が遅くなります。できるだけデータ転送速度が同じ機器を上流に並べて接続してください。

注意

- i.LINKの伝送フォーマットには、本機の「i.LINK (AUDIO)」(A&Mプロトコル)の他に、BSデジタルなどの「MPEG-2 TS」、DVDレコーダーやデジタルビデオの「DV」などがあります。本機にi.LINK(AUDIO)非対応の機器(パソコンの周辺機器など)を接続すると、誤動作や故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- データ転送中は、つながっている機器のi.LINKケーブルを抜き差ししたり、電源をオン/オフしないでください。
- i.LINK対応機器によっては、電源がオンになっていないとデータを中継できないものがあります。

- i.LINKに対応していても、機器によっては動作しないことがあります。

- 受信側の機器が本機の出力モードに対応していないことがあります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

複数のi.LINK機器を接続するには

デジチェーン接続 (数珠つなぎ)

数珠つなぎに一行に接続する場合は、本機を含めて17台まで接続できます。

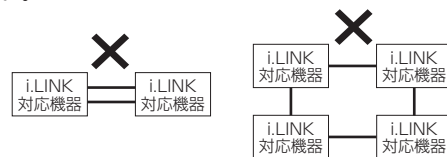


ツリー接続

i.LINK端子を3個以上備えている機器がある場合、途中で分岐して接続することもできます。本機を含めて17台まで接続できます。



信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうと動作しません。接続が輪(ループ)にならないように注意してください。



この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。

- 1) IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
- 2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0

この規格のAM824 sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、スーパーオーディオCDに対応しています。

その他

用語

2chダウンミックス

サラウンドの音声を2chステレオに変換して再生することです。

5.1ch

フロント左/右、センター、サラウンド左/右の5チャンネルに低音域専用の0.1チャンネルを加えたサラウンドの音声のことです。

CPRM (Content Protection for Recordable Media)

1回だけ録画可能な映像素材に対する著作権保護技術です。この方式で録画されたメディアは、CPRMに対応した機器でしか再生できません。

DCDi

ジャギーノイズを抑えたプログレッシブ映像に変換する技術です。

DSD (Direct Stream Digital)

スーパーオーディオCDに採用されているデジタル信号方式です。原音に近い録音・再生が可能です。(→リニアPCM)

DTSデジタルサラウンド

DTS, Inc.が開発した劇場用のサラウンド方式で、5.1チャンネルまでの音声を出力できます。圧縮率が低いため、ダイナミックレンジの広いサラウンド効果が得られます。

DVDオーディオ

DVDに音楽データを記録するための規格です。サラウンドに対応し、CDよりも高音質、長時間の再生が可能になります。サンプリング周波数、量子化ビット数、チャンネル数の組み合わせによって、音質や最大記録時間は異なります。

DVDビデオフォーマット(ビデオモード)

DVD-R/DVD-RWディスクに「一筆書き」のように記録する方式です。市販のDVDビデオディスクと同じ方式です。(→VRモード)

DVDビデオレコーディングフォーマット(VRモード)

DVD-R/DVD-RWディスクの「不特定な位置」に記録する方式です。録画済みの映像の編集が可能ですが、VRモード対応のDVDプレーヤーでしか再生出来ません。(→ビデオモード)

DVI (Digital Visual Interface)

デジタルディスプレイ装置の映像出力インタフェースの標準規格です。映像品質を最大限活かすよう設計されており、HDMI規格と互換性があります。

D端子

コンポーネント映像信号(Y/CB/CR)と、走査線数・走査方式・アスペクト比の識別信号を入力または出力する端子です。D1~D5の5種類があります。

HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection)

映像再生機器とディスプレイ装置間でデジタル信号を送受信する際に暗号化し、コンテンツの不正コピーを防止する著作権保護技術の一つです。

HDMI (High-Definition Multimedia Interface)

デジタル映像、デジタル音声、制御信号を1本のケーブルで伝送できるインターフェースです。

i.LINK

国際標準規格であるIEEE1394の別称です。くわしくは63ページをお読みください。

MPEG

動画や音声の圧縮方式の一つです。DVDビデオディスクの映像は、MPEG-2で記録されています。

NTSC

アメリカで制定されたアナログカラーテレビ放送の規格です。日本や台湾、韓国、フィリピン、中南米諸国で採用されています。

PAL

旧西ドイツで開発されたアナログカラーテレビ放送の規格です。西ヨーロッパや東南アジア、中東、アフリカ、ブラジル、オーストラリア等で採用されています。

S/N比

信号(Signal)に対する雑音(Noise)の量を対数で表したもので、単位はデシベル(dB)です。数値が大きければ雑音が少ない高品質の信号が得られることを意味します。

S映像 (Separate Video)

輝度信号Yと色信号Cを分離した映像信号のことです。S1は映像のアスペクト比(4:3、16:9)の識別信号の入ったS映像信号です。S2には、S1の識別信号に加えて、アスペクト比4:3レターボックスの識別信号が入ります。

アスペクト比

テレビ画面の横と縦の比率をいいます。従来のテレビは4:3ですが、ワイドテレビは16:9です。

インターレース(飛び越し走査)

画面を表示するときに、奇数番目と偶数番目の2回に分けて走査する方式です。従来のテレビはこの走査方式を採用しています。(→プログレッシブ)

コンポーネント映像

映像信号を、輝度信号Y、色差信号(CB、CR)の3つに分けて扱います。S映像と比べると、信号の干渉が少なく、高画質です。

コンボジット映像

輝度信号Y、色信号Cを合成して同時に扱えるようにした複合映像信号のことです。現行アナログテレビ放送の方式です。

サブタイトル(マルチ字幕言語)

映画などの字幕のことです。1枚のDVDビデオディスクに複数の字幕(最大32)が記録されている場合は、その中からお好きな字幕を選ぶことができます。

スーパーオーディオCD

DSD方式で記録された高音質のディスクです。2チャンネルと、最大5.1チャンネルのサラウンドに対応しています。

ダイナミックレンジ

信号の最小値と最大値の比率を対数で表したものです。単位はデシベル(dB)です。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズが開発した、デジタル音声の記録方式です。DVDビデオや映画などに利用されています。最大5.1チャンネルのサラウンド再生が可能です。

プログレッシブ(順次走査)

1回の走査で画面を表示する方式です。特に静止画や文字などを表示する際に、チラつきを抑えた美しい映像を再現します。(→インターレース)

ボーナスグループ

DVDオーディオディスクの中には、4桁の数字(キーンナンバー)を入力しないと再生できない「ボーナスグループ」が収録されているものがあります。

ボーナスグループを再生しようとするとうり画面が表示されますので、ディスクのパッケージなどでキーンナンバーを調べて、入力してください。

マスタークロックジェネレーター

エンテリックのG-0sなど、ワードクロック(同期信号)を出力する機器のことです。(→ワードシンク)

マルチ音声言語

1枚のDVDディスクの中に複数の音声(最大8)が記録されている場合は、その中からお好きな音声を選ぶことができます。

リージョンコード

DVDプレーヤーとDVDビデオディスクは発売地域ごとに再生可能地域番号(リージョンコード)が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョンコードは2です。日本国内で販売されるDVDビデオディスクのリージョンコードは、基本的に2(またはALL)です。

リニアPCM (Linear Pulse Code Modulation)

音声などのアナログ信号を、圧縮せずにデジタル化する方式です。記録されたサンプリング周波数が高いほど高音質になります。CDは44.1kHz、DVDオーディオは96kHz~192kHzで記録されています。

(→DSD)

ワードシンク

ワードシンク端子をエンテリックのG-0sなどワードクロック(同期信号)を出力する機器と接続して、各機器のクロックを同期させることです。デジタル・データの伝送ジッターを原理的になくすことができます

仕 様

再生可能ディスク

DVDビデオ、DVDオーディオ、スーパーオーディオCD、CD、ビデオCD、DVD-R、DVD-RW

映像出力

S1/S2映像出力

Y出力レベル..... 1 Vp-p (75Ω)

C出力レベル..... 286 mVp-p (75Ω)

出力端子..... S端子

映像出力

出力レベル..... 1 Vp-p (75Ω)

出力端子..... RCA端子

コンポーネント映像出力

Y出力レベル..... 1 Vp-p (75Ω)

Cb/Pb、Cr/Pr出力レベル..... 0.7 Vp-p (75Ω)

出力端子..... BNC端子

D1/D2端子(Y、Cb/Pb、Cr/Pr)

Y出力レベル..... 1 Vp-p (75Ω)

Cb/Pb、Cr/Pr出力レベル..... 0.7 Vp-p (75Ω)

出力端子..... D端子

HDMI端子

出力端子..... 19ピン (Ver1.3準拠)

アナログ音声出力

端子..... XLR端子(2ch)×1
RCA端子(2ch)×1

最大出力レベル (1kHz、フルスケール)

XLR : 2.5 Vrms

RCA : 2.5 Vrms

周波数特性..... 5Hz~88kHz (DVDオーディオ)

S/N比..... 108dB

(スーパーオーディオCD、1kHz、JEITA)

ダイナミックレンジ..... 106dB

(スーパーオーディオCD、1kHz、JEITA)

歪率..... 0.001%

(スーパーオーディオCD、1kHz、JEITA)

ワウ・フラッター..... 測定限界以下

(±0.001% W.PEAK, JEITA)

デコード可能フォーマット

DTS、DTS 96/24、ドルビーデジタル、

PCM 44.1kHz~192kHz/16~24bit、DSD

デジタル音声出力

光デジタル出力 . 光デジタル端子×1、-15~-21dBm

同軸デジタル出力 RCA端子×1、0.5 Vp-p/75Ω

i.LINK(AUDIO)端子×1

ワードシンク入力フォーマット

端子..... BNC

入力可能周波数 (矩形波)

44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、100kHz、

176.4kHz、192kHz

およびこれらの96%の周波数 (4%ダウンモード時)

入力レベル..... 4.5Vp-p/75Ω

一般

電源..... 100V AC 50-60Hz

消費電力..... 37W

外形寸法..... 442mm x 153mm x 353mm

(WxHxD、突起部を含む)

質量..... 24kg

許容動作温度..... +5°C~+35°C

許容動作湿度..... 5%~85%(結露のないこと)

許容保管温度..... -20°C~+55°C

付属品

電源コード×1

リモコン(RC-1082)×1

リモコン用乾電池(単3)×2本

フェルト×3枚

取扱説明書×1

ご愛用者カード×1

JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定法によるものです。

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。

取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。添付のご愛用者カードに必要な事項を御記入の上、速やかにお送りください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から一年です。

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、保証書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。なお、離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - メンテナンス
 - 保証書の提示がない場合
 - 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

60~62ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：ユニバーサルプレーヤー UX-3 Pi

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先

故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。

適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



株式会社ティアック エソテリック カンパニー

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

<http://www.teac.co.jp/av>

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室



0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

電話：0422-52-5091 / FAX：0422-52-5194

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。